ASUKA GUMI

TV VERSION
花のあすか組!



NEWTYPE 100 COLLECTION


九楽あすか
小高恵美


POW!
Archie
SWOOSH!


「天使の時間割」



MEGUMI as ASUKA





カメラ／大塚俊一　スタイリスト／大野恵子　ヘア&メーク／戸口耕平
協力／PAR AVION☎470・6536　Comin Soon☎408・6906　Dana Mattiass☎401・8967







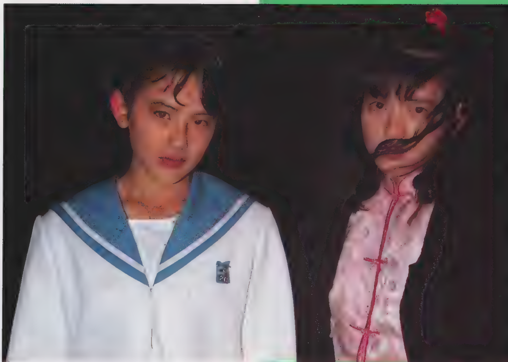

2C


2C



MEGUMI as ASUKA

MEGUMI as ASUKA











MEGUMI as ASUKA









MEGUMI TALKS

最近グラビア撮影をしていて、あすかの顔をするか、恵美の顔か、一瞬アレッ？と迷ったことがありました。ふだん、ドラマみたいなセリフを言ったり、どなったりはしないけど、ＴＶのあすかと恵美が、あんまり変わらなくなってきたんです。

でも、悩みもあります！　髪の生えぎわが、すっかりあすか分けのクセがついちゃったのと、プライベートでも、あすかみたいにツッぱってるというか、キツイと思われちゃって、コワイ人かと思ってたなんて言われちゃったりして……。自分ではひとつのことしかできない集中タイプなので、そう思われるのかなぁ。お仕事でも、ドラマやってるときはドラマ、歌のときは歌、と集中してます。「あすか組」の主題歌「BLUE WIND」は、ホントにカッコイイ曲で、歌ってるのが自分じゃなくても、絶対イイと思います。レコーディングは、わりとスムーズに行きました。わたしは、歌詞を全部おぼえてから曲に入る人で、珍しいタイプだそうです。

共演の小沢なつきちゃんは、すごくアドリブがうまくてとってもうらやましい!!　プライベートでも何でも相談できる先輩って感じ。石田ひかりちゃんの、ふいに見せるオチャメも、とっても好き。ぴーさん（ひかりちゃんのこと）とはクラスメートでもあるし、プリティな人ですね。

自分の性格は、好奇心が強くて、感情の起伏が激しいと思う。あと、電話魔。疲れて帰っても、３人くらいの友達と電話で話すと直るんです。ロケからまっすぐ登校した日は、顔がボーッとしてるので、「機嫌悪いの？」なんてきかれるけど、そうじゃなくて、ホッとしてるんです。だから、学校の友達は、わたしのこと大ボケ野郎って思ってるかもしれないなぁ。

自分の顔で好きなところは、目。キライなところは口です。プロポーションでは、足に自信がない。あと、変ですけど自分の鎖骨が好きです(笑)。

スポーツは、いまは球技が好きで、登山なんかにも興味がありますね。動物では、かしこくて魅力的だから、ネコが好きです。前は、ナオっていう名前のネコを飼ってました。今は飼えないので、つまらないです。



体力つけてガンバリま〜す！

男の人は、マイペースで、性格がかわいい人が好き。理解があって、わたしを大切にしたいって気持ちが伝わってくるような人だと、イイと思います。そういう人がいたら、25歳くらいで結婚したい。理想ですけど……。

夏になって、あすかの戦闘服が変わったの。シブイでしょう。まだ、服に負けてるって感じだけど、自分で自分に「カッコよくなりたい」ってプレッシャーかけたから、ガンバリます！　もちろんケガに気をつけてね。大好きなハンバーグステーキ食べて、体力つけるぞぉ。


2C

小高恵美



●本名　小高恵美　●生年月日　昭和47年5月9日（16歳）　●身長　157㎝　●体重　46kg　●3サイズ　B82　W58　H84　●星座　牡牛座　●血液型　A型　●視力　右1.0 左1.0　●出身地　神奈川県　●趣味　テニス、水泳、絵画、コーラス、そしておそーじ　●特技　クラシックバレエ、エレクトーン　●好きな食べもの　ハンバーグステーキ♡　●嫌いな食べもの　セロリ　●好きなファッション　ラフなスタイル。リセエンヌっぽいもの　●嫌いなファッション　OLっぽいもの　●好きな花　かすみ草　●好きな季節　秋　●嫌いな季節　冬（しいて言えば）　●好きな音楽　ちかごろ工藤静香Sanの歌をよく聞きます　●子供のころは？　男の子っぽくて、外で走りまわっているような明るい子　●朝、起きて一番最初にすることは？　洗顔　●自分でヘアメークするときかかる時間　ふだんはヘアが10分弱、メークが20分　●日記をつけてますか？　NO！むかしはつけてたゾォ　●子供のころなりたかった職業　教師もしくは女優　●もし生まれかわることができるとしたら？　男！男の友情を味わいたい　●クセ　舌を出す　●ふとん派？ベッド派？　ベッド派　●もし宝くじが当たったらどうする？　両親にあげます　●占いを信じますか？　YES　●もしも雑誌にヌードを撮らせてくれと言われたらどうする？　拒否しますっ！　バカヤローってカンジ!!　●好きなマンガ　花のあすか組！　ホットロード　●好きな小説　赤川次郎さんの作品　●これまでにラブレターをもらったことは？　あり　●目標とする女優さんは？　吉永小百合さん。好きな女優さんならば浅野温子さん　●学校　堀越学園高等部1年在学中　●ヘアースタイル　あすかヘアーにしたのはことしの4月9日。中学のときから3年間のばしていたロングヘアーをばっさり　●レコード　シングル　「早春の駅」('88.2.21)、「BLUE WIND」('88.7.6）ポニーキャニオン　●映画　'87年2月、沢口靖子につづくヒロインとして第2回東宝シンデレラに応募者3万6116人のなかから選ばれ「竹取物語」('87.9　東宝）に出演。第11回日本アカデミー賞新人賞を受賞　●コマーシャル・日本生命　JUST、BIG YOU　日本たばこ産業株式会社　清涼飲料水HALFTIME。コマーシャル撮影はあんまりNGもなくスンナリいきました。ベンダー（自動販売機）しょっててオカシイよ。ぜひ見てほしいです♡　●ファンレターの宛先　〒100 東京都千代田区有楽町1　2　1　東宝芸能株式会社「小高恵美」係まで。また、東宝芸能株式会社では小高恵美を応援する「小高恵美情報局」のメンバーを募集しています。はがきにあなたの名前・住所・生年月日・電話番号をお書きのうえ、東宝芸能株式会社「小高恵美情報局メンバー希望」係までお送りください。

Hair & Makeup : ATSUYA TAKEUCHI



MAKING OF ASUKA GUMI





カメラを向けられると、思わずベー。スナップで見つけたお得意の表情です



ロケバスから顔を出してニッコリ。手にしているベティさんケースの中はお菓子

めぐちゃん元気!

TVドラマの一枚看板、主役のあすかに抜擢されて大健闘している小高恵美ちゃん。撮影スナップ集のスタートは、元気いっぱい、好奇心いっぱいで撮影所を駆け抜ける愛称MEGUちゃんの表情を集めてみたよ。あすかとはちょっと違う、花の素顔を見て!

MAKING OF ASUKAGUMI



第10話のひばり御殿衛兵の制服を着て敬礼／　背後霊のようなミコの表情にも注目してネ



撮影の合間に、ちょっと雰囲気っぽく立ってみたりして……





好奇心旺盛なめぐちゃんのこと。セッティングされたカメラをのぞいてみたりします



照明さんの使うレフ板を日除けがわりに。裏には「スケバンⅢ」の文字が

「やり〜っ／」と言ったかどうかは定かでないが、カメラに向かってＶサインで走ってくるところはまさに少女ざかり♡



撮影所の片隅でマンガを読んでいるわけじゃありません。
台本に目を通して、セリフを覚えているところなのです





住宅街の、それも道の真ん中で野だてとは風流な……!?　これもおもしろくしようとみんなで頭をひねった結果ですね

撮影風景 スタッフ奮闘編

俳優だけではドラマはつくれません。たくさんのスタッフ、特に撮影の現場にたずさわる大勢のプロフェッショナルの努力と工夫があったればこそ、おもしろい番組が生み出されるのです。特に「あすか組」は東映TVプロが制作。そのスタッフのがんばりに大きな拍手を送ろう。



第10話で[illegible]の決闘シーンのロケ。上のほうにズラッと並んでるのは、もしかして野次馬？



大井利夫監督（右から２人目）みずから、ミコのキンチャク・アクションの段取りをしています

これは渋谷の代々木公園ロケのスナップ。大きな鎌のように見えるのは、もちろん録音用マイクです



ベテラン・村上俊郎カメラマン。田中秀夫監督とのイキもピッタリです





第8話での、十人衆・鬼とあすかの対決シーンの撮影風景。この大さわぎがいい画面をつくるのです



アイスクリームを食べる3人を囲む、人だかり。これがみーんな撮影関係者なんですよ

第7話の冒頭、ストリートファイトのシーンのロケ風景。場所は他の東映番組でもおなじみですね

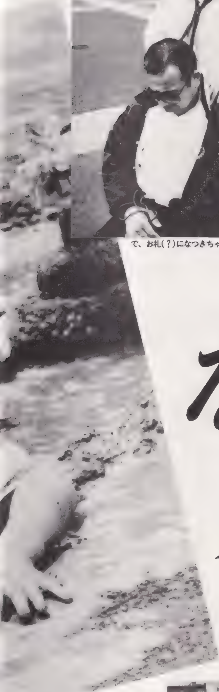




ビルの窓から体を出して、この人は何をしているんでしょうか？実は線路をはさんだ向かい側を撮影しているカメラマンなのです

ロケ先であっという間にできた行列。なつきちゃんたちにサインをねだる女の子ファンの群れです







で、お礼(?)になつきちゃんが橋本さんの肩をもむの図



「スケバン刑事」シリーズでもおなじみの装飾担当、装美社の橋本俊雄さんが、撮影前にミコの靴を磨いているところ

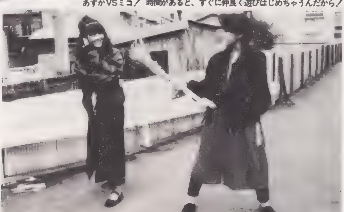
なつき負けない!

ケンカっぱやくて、色気より食い気。自分の学校へも行かず、いつもあすかの周りで何かおもしろいことないかと目を輝かせているミコは、なつきちゃんにピッタリ。けっこうドジな役なので、ご覧のようにとんでもないシーンもいっぱいあります。でも、彼女は負けません。私は女優よ!——の根性モノです

びーさん、なーさんと呼び合う仲の石田ひかりちゃんと



あすかVSミコ! 時間があると、すぐに仲良く遊びはじめちゃうんだから!





フィリックス君の鏡をのぞきこむなつきちゃん。気になるのは何？



いつも笑顔を忘れないなつきちゃん。撮影現場でもひときわ輝いてるね♡



マンガが大好き・大得意の彼女のファイルには「ルパン三世」が！





ミコの武器はブラックジャック代わりのキンチャク。軽いので、うまく飛ばすのが難しい

アクションの秘密公開

「スケバン刑事」シリーズに始まる少女アクション路線。その売りものは、何といってもアイドルたちが体当りで演じる殺陣、すなわちアクションのおもしろさです。もちろんこの「あすか組」でも出演者とスタッフの呼吸の合ったハデな格闘シーンが毎回毎回生み出されています。

第1話、坂道を転がり落ちる金貨を追って、あすかが空中大回転を見せるシーン。もちろん、回転するのはスタントマン(写真中央・下)、つまり吹き替えですが、あすか役の恵美ちゃんも一生懸命坂道を走ります。勢いがついて止まらなくなった恵美ちゃんを、数人のスタッフがディフェンスしてストップさせたり(写真上)、とにかくみな一丸となって、アクションを盛り上げています









アクションの基本は体力と柔軟性。主演の3人娘も、まずトレーニングで体づくりからスタート／

何人もが入り乱れる格闘シーンは、段取りが大事。入念なリハーサルと打ち合わせが行なわれます



MAKING OF ASUKAGUMI



怪力の持ち主という設定の山。あすかを投げとばすシーンでは、スタッフが両側から支えて助ける



「えいやっ!」——スタントを使わず本人が演じるからこそ、迫力もののシーンができるのです



こうやって撮影すればミコもスケートボードの名手に早変わり。塀だってスイスイすべれるのだ



葵のかまいたちでミコの髪が切られるシーンの準備中。ピアノ線で刃を飛ばすわけやネ

ミコのポーズを決めている上田さん。いわゆる殺陣というのは、踊りの振りつけに近く、最も きれいに見える"型"をつくる大切な仕事なのだ



アクション・クリエーターは「少女コマンドーいづみ」に引き続いて上田弘司さん（中央）



微笑む!



後ろ姿だけでピカちゃんだとわかるよね。ジャンパーを後ろ前に着ているのは寒さを防ぐためです





ぼんやりとして遠くを見ている表情がステキ♡ とてもオトナっぽいのです



第6話、はるみはブルドーザーであすかの危機を助けます。もちろん、運転シーンは吹き替えでした



撮影の合間に乱れた髪を整えます。これぞ女の子の戦闘準備!

ピカちゃん。

「〜〜でございますわよ」「〜〜してさしあげますわ」と、究極のお嬢さまことばを連発するはるみ役の石田ひかりちゃんは、ふだんもおとなしやかな日本版ジェニファー・コネリーみたいな美少女!でも、こんな表情を見せてくれるときもあるのだ。



なぜ彼女が頭にタオルを巻いているかというと(右下を見よ)



第3話、全中裏の水責めのシーンにも笑顔で耐えぬく女優根性! がんばってますねぇ



人気の高いピカちゃんのクェス・ヘア(ガンダムファンにはわかるよね)。さすが花○のシャンプー、リンスの威力!?



ロケ先では、道路のはじっこも美容院に早変わりします



あすか組 小道具チェック!

出演者ばかりでなく、ドラマに使われる小道具の数々も大事な役者さんです。「あすか組」に登場した小道具を、ここにピックアップ。おまけに、撮影現場で見つけた、ちょっとミョーなものも集めてみました。題して「あすか組」こんなモノもありましたチェ〜ック！



ミコの通学カバン。ちゃんとクラスと名前が書いてあります。もちろんペッタンコ



明智光子に化けた鬼の正体を暴くため、はるみのビデオカメラにこのボードでテロップを出してみせた第8話。絵の得意な小沢なつきちゃんの自筆だよ〜ん





第6話で桜井祥子が使った小型火炎放射器（こいつは少女コマンドーか!）。どうやって税関をごまかしたかはさだかではないが、威力は大したものでした

風林火山の防衛網を突破し、あけぼの橋を渡るためにあすかとミコが使ったスケートボード（4話）



MAKING OF ASUKAGUMI



ASUKA GUMI NEWS

あすか組がひばり様のラジオ番組に応援出演!?

ひばり様こと、佐倉しおりちゃんがパーソナリティーをつとめる「乙女学園リボン組」(ラジオ日本・金曜夜11時半～0時)の第1回放送分の公開録音に小高恵美・小沢なつき・石田ひかりの3人がゲスト出演。なつきちゃんが「きれい?」を披露したり、「あすか組」の話題などで盛り上がったというわけであります。







ローソクはいくつ?トリオでバースデー

「あすか組」のアイドル3人娘、恵美ちゃん、なつきちゃん、ひかりちゃんは同い年で誕生日も近い――というわけで、4月16日、スタッフが東映撮影所で3人合同のバースデーを祝う会を開きました。田中・大井両監督や脚本の武上先生から花束をもらい、そろってケーキカット。大喜びの3人でありました。



台本と裁縫道具が入ったボックス。スタジオだけでなく、ロケ先でも威力を発揮する衣装さんの必携アイテムであります



マネージャーさんやスタッフの似顔絵もあるボードの寄せ書き



恵美ちゃんの自画像入りティッシュの箱。これはひとつ欲しいです

ロケバスには、しっかり「あすか組」の番宣ポスターがはられていた!



笑顔がいっぱい!

春先の異常寒波、天候不順、そして梅雨と撮影スケジュールを混乱させる空模様にもめげず、出演者とスタッフが一丸となって「花のあすか組!」をつくってきました。撮影スナップ集の締めくくりは、やっぱり笑顔でまとめましょう。夏の青空のような、ステキな笑顔に乾杯!



いつも無口なひばり様だけど、笑うと、ホラこーんなにステキなんだぜ!



ヒステリックで傲慢なキャラクターだった十人衆・紅役の加藤麻里さん。撮影スタッフの受けも良く、愛馬?を相手にこんな愛らしい笑顔を見せてくれました



ほんでもって、にっくき敵の春日とあすかたちが談笑するシーンも、撮影スナップならではですね

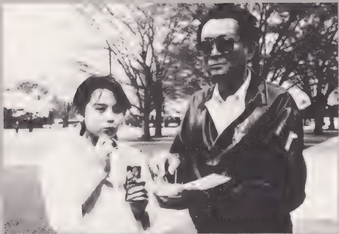
女の子が3人寄れば……。あんなこともして、こんなこともして、ああっ、うらやましい!



呼吸もぴったり! ひょうきんな相楽晴子ちゃんの応援出演に、めぐちゃんも思わずキャピッ♡



MAKING OF ASUKAGUMI



恵美ちゃんといっしょにタコ焼きをぱくついているのは、もちろん田中秀夫監督。父娘みたいだね



なつきちゃんが太ったと気にしていた元凶はこれ。毎回、何か食べてましたからね、ミコは……



やっぱり食べてるときがいちばん楽しいね。体重も気になるけど、やめられない、とまらない？



まだ、ちょっと寒さの残る日のアイスクリームもまたオツなもんです。ね、めぐちゃん、ぴーさん？

この本の取材でもお世話になった女性マネージャーさんたち。一説には裏あすか組と呼ばれてるとか



風にながされるほど
ヤワじゃない
風に逆らうほど
馬鹿じゃない

第1話「少女戦国に嵐吹く!」で、自殺から立ち直り、3か月後に退院したあすかが、泰山学園に登校する途中の坂道でつぶやいたことば。あすかが選んだ新しい生き方、決意を端的に表わした名セリフ

手を汚さなければ
何もつかめない

第2話「学園城を奪い返せ!」のなかで、暴力で攻めてくる全中裏に対し、暴力で対抗してはいけないと主張するはるみにあすかが言ったことば。きれいごとだけでは平和を手に入れることはできないという趣旨だ

欲しいのは
親友（マブダチ）だけさ

第3話「はぐれスケ番ミコ」で、独立スケバン連合をつくろうとあすかが呼びかけた。それにこたえた竜神中学の表番・伊藤光子の「対等の連合と考えていいんだね」という問いに対するあすかの答え

生きて
死んで
いるより
死ぬまで
熱く
生きていたい

第4話「つぶせ! 風林火山」の名場面。路上で野だてをして風林火山の進軍を待ち受けていたあすかが、対峙した風の「今度こそ死ぬぞ」ということばに答えたセリフがこれ。すがすがしいあすかの生きざまを表わす

生まれてくるときは
ひとり
死ぬときはまた
ひとり

第5話「謎の美少女を捜せ」で、ひばり様のネコになった真紀は、イジメから解放されるかわりに友達も失ってしまう。絶望して自殺を図ろうとした真紀を止めて、あすかが言ったことば。よくかみしめてほしい

他人のいたみが
わからない奴は
ケンカをする
資格はない

第6話「突然! 炎の転校生」で、自分を助けるために弥勒と戦ったあすかがピンチになったとき、何もできなかった祥子をミコが責めた。それを止めてあすかが言ったことば。あすかのけんか道を表わす好例である


堂本ミコ
小沢なつき




「瞳で囁いて」


NATSUKI
as MIKO




オカダヤ☎352・5411 Moving blue☎478・7677 PAR AVION Dana Mattiass comin' soon



NATSUKI as MIKO











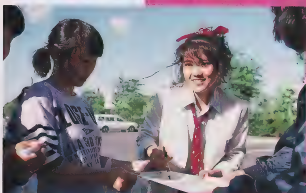







NATSUKI as MIKO





NATSUKI as MIKO







今いちばん欲しいのは、時間



NATSUKI TALKS

「小沢なつき」って、どんな性格かひと言で言うと、ミョーな人！　もし、ボーイフレンドがいたら、その人は天国と地獄……ほとんど地獄ですよ、きっと。お料理は苦手なのに、もしデートでお弁当や手料理をごちそうしてほしい、なんて言われたら、前の晩から徹夜。本を見て必死に作ってる。で、結局時間を過ぎてもできなくて「出前とろうよ」なんて言っちゃうんだ。わりと凝り性ではあるみたい。

今は、インテリアに凝ってます。ちょっと前にお部屋の模様替えをして、シックな感じにまとめたから、それに合う新しい電話がほしい！　ほしいな、と思ったら、その日のうちか、次の日には買っちゃうほうで、わりと決断は早いですね(と言って、この本のグラビアを撮影中のスタジオから家電屋さんに電話して、ほしい電話機があるかどうか聞いていました、なつきちゃんは！＝編集部注)。

あと、凝ってるのは、ラフなファッション。黒とか白とか、ハッキリした色が好き。ブリッコブリブリのヒラヒラ、ちゃらちゃらした服は好きじゃないんです。音楽の好みなんかもそうで、ドゥービーブラザースが好きって言ったら、トシのわりにシブイ趣味だって言われちゃった。あと好きなのはビートルズと、ギルバート・オサリバン、大滝詠一さん、米米ＣＬＵＢとか。最近は、朝起きたら最初に「アローン・アゲイン」「イエスタデイ・ワンスモア」なんかをかけてます。

本では、少し前に村上春樹さんの「ノルウェイの森」を読んで、すっごく感動しました。友達にも、いっぱいススメちゃった。絶対イイですよ。マンガの「あすか組」と「ＯＮＥ—愛になりたい」「エコエコアザラク」も好き。

「花のあすか組！」の撮影は、小高恵美ちゃんや石田ひかりちゃんと、とても気が合って楽しいです。年齢が同じで誕生日も近いの。３人とも、けっこう役のイメージに合ってますねえ。ミコは、ひとりボケかましてるとこが、小沢と似てまーす、なんちゃって。

でも、ミコはいつも何か食べてるから太っちゃった。顔から太るんです、私って。あと、夏になってあすかとはるみの制服は夏服に替わったのに、ミコはそのままなの。真夏の撮影になったら暑そうですよねえ。ミコの武器のキンチャクには、タオルを入れてふくらませています。軽いので、飛ばすのがなかなか難しいの。ミコが元気な役だから、今度は病弱の子とか演ってみたい。イメージ違いすぎるかな？

好きな男の子のタイプは、年上で頼りがいがあって、歯のカワイイ人。男の人から気持ちを打ち明けられるとしたら、ストレートに言ってほしい。実は、小沢は押しに弱いのであった。プレゼントは、身につけられるものが嬉しい。でも、今いちばん欲しいのは、時間かな。ボーイフレンドは、今はいいデス。



小沢なつき



●本名　山下純子　●生年月日　昭和47年4月19日（16歳）　●身長　156㎝　●体重　43kg　●3サイズ／B78　W58　H83　●星座　牡羊座　●血液型　A型　●視力　右0.8 左0.8　●出身地　東京都　●好きな食べもの／プリン、おかし　●嫌いな食べもの　きびなご(お魚です)、ピーマン　●好きなスポーツ／なーんにもやってません。見るのならバスケットボール、サッカー、サーフィン　●苦手なスポーツ／飛び箱、なわとび、バレーボール、ハードル走　●好きな花　小さなバラ（ＰＩＮＫの…）　●嫌いな花　ドクダミ草（花じゃナイですね？）　●好きな季節　春、秋　●嫌いな季節　特になし　●自分でヘアメークするときかかる時間　38分　●自分の顔で好きなところ　ないでス　●自分の顔で嫌いなところ　全部！特にハナッ!!　●自分のプロポーションで好きなところ／……しくしく　●自分のプロポーションで嫌いなところ　だんぜん胸!!オシリ!!　●子供のころなりたかった職業　およめSan　●クセ　髪をかきあげる。「んー??」って顔をする　●ふとん派？ベッド派？　ベッド派　●ペット／セキセイインコのバカボン　●イヌ派？ネコ派？　イヌでース。イヌのほうが好き♡　●結婚は何歳くらいで？　24歳　●レコード／シングル　「追いかけて夏」('87.6.21)、「クリスマスには間に合わせたい」('87.10.21)、「卒業」('88.2.26)、「きれい？」('88.6.15)、アルバム／「CHOCOLATE CANDLE」('87.12.9)CBSソニー　●映画　「ビー・バップ・ハイスクール」('87.3　東映)、「19　ナインティーン」('87.8　東宝)、「山田村ワルツ」('88.2　松竹)　●舞台　「ＴＩＭＥ　19」('87.7青山劇場)　●テレビ出演作　「パパ合格、ママは失格」(NTV'86.6〜9)、「なかなかドジらんぐ」(ANB'87.7〜9)、「制作2部青春ドラマ班」(ANB'87.10〜12)、「ゾンビがくるりと輪をかいた」(NTV'87.3)、「哀しみの吸血鬼」(TBS'87.9)ほか　●コマーシャル　グリコ　ジャイアントコーン、パティーナ、パナップ　ロート製薬　キャンパスリップ　NEC　パソコン通信　●ファンクラブ&ファンレターの宛先　〒107 東京都港区赤坂7－6－47　赤坂ニュー・プラザ301号ケイハウス内「K－HOUSEクラブ」小沢なつき　☎03・582・0920　入会希望の方は、住所・氏名・生年月日・電話番号を明記して、入会金500円と、半年分の会費1500円の合計2000円を、現金書留にて「K－HOUSEクラブ　小沢なつき」係へ。会員になると、隔月刊の会報「K－HOUSE新聞」(現在第6号まで発行)、会員証、直筆サイン入りブロマイド、コンサートチケットの優先購入などの特典があります。

Hair & Makeup : ATSUYA TAKEUCHI



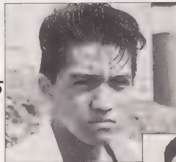
CHARACTER OF ASUKA GUMI

CHARACTER OF ASUKA GUMI

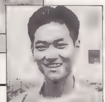
あすか組 キャラクターチャート

あすか組　九楽あすか

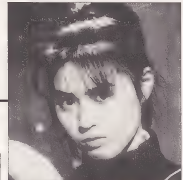




ヤス(康弘)



弟分ヒロシ



織田信子

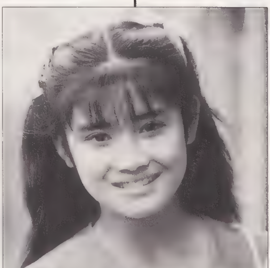
北一区 七天王

あすかの生き方に共感した信子や祥子、そしてヤスたちにより、あすか組のネットワークが広がった

祖父
篠宮余一郎

両親
九楽昨造
九楽今日子

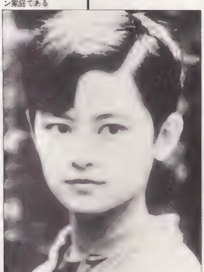
あすかの血縁にあたる人たち。祖父・余一郎はかなりの財産をもつ実力者だが、九楽家はごく普通のサラリーマン家庭である



香月はるみ



堂本ミコ



アスカ



桜井祥子

独立スケバン連合

ゴールドリボン



兵藤奈津子



立花ミツオ

全中裏　総師　ひばり様



右大臣　春日





ネコ　真紀

(♥?)

?
左大臣
(空席)

全中裏

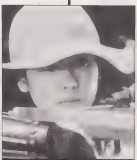
全中裏は全国の中学校を仕切る裏番長の連合組織で、表番たちをも支配下に置いている恐るべき集団。総番たるひばり様を総帥にいただき、その側近である春日、ネコと呼ばれるひばり様の親衛隊、そして幹部クラスの実力者・十人衆、全中裏内部の矯正機関である蘭塾と、秩序を乱す者を取り締まる懲罰部隊などで構成されている

十人衆

ひばり様の全国制覇の先兵となって、各中学校に侵攻、支配下におさめる実働部隊が十人衆である。厳密に10人というわけではなく、風林火山の４人や葵三姉妹（葵・次・末）のようなグループもある。蘭塾を取り仕切る朱や、原作ではあすかの友となる姫の登場も待たれるところだ



紅



天使



弥勒



山　火　林　風

蘭塾落ち

懲罰部隊



鬼



葵

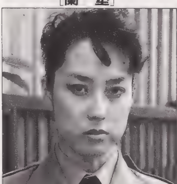
末

次

あすかのために西三区を奪回され、十人衆を次々に打ち負かされた全中裏は、刺客をやとってあすかを狙わせたり、あすかに賞金をかけて、魔族と鬼族レディースを競合させたりした。風の妹である蝶や、あすかの幼なじみ・ヨーコ、新体操のスター・兵藤奈津子らも全中裏の手先となって挑戦してきた

刺客　蝶

［蘭　塾］



教官　トラゴン

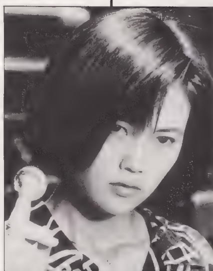
⬅蘭塾は、全中裏のメンバーにとっては〝虎の穴〟のような恐るべき場所。任務に失敗したり、掟を破った者はここに送りこまれ、再教育や再訓練を受けるのだ

朱

姫

魔族

鬼　族
レディース



ヨーコ



CHARACTER OF ASUKA GUMI
あすかと仲間たち

親友サチを失った悲しみを怒りに変え、全中裏と徹底的に戦う決意をしたあすかは、そのあかしとして髪を切る



九楽あすか（小高恵美）

平和な泰山学園を支配するべく魔の手をのばしてきた全中裏に対して、たったひとりのあすか組を旗揚げして戦いを挑んだ少女。もとは泰山学園２年Ｃ組に籍を置く普通の女子中学生。突如として現われた全中裏・十人衆の紅に親友サチとともに反抗したため、油虫（＝いじめられっ子）として追いつめられ、一度は自殺をはかる。だが、祖父の励ましとサチを全中裏に殺された怒りでよみがえり、全中裏を倒し天下を取ろうと決意。24金の金貨を武器に、全中裏と戦う。注射と野球、それにカミナリが大嫌い

学園支配をめぐって全中裏と戦うあすかにとってセーラー服はまた戦闘服でもある。丈の長いスカートはいかにもスケバンといったカンジ…。たったひとつの武器である24金の金貨は、左胸のポケットにいつも忍ばせている。敵のみけんに投げつけたり、こぶしにはさんで殴りつけたりするのが正しい（？）使い方











■あすかのファッション
サラシに赤い上っ張り、黒いスラックスにチャイナシューズと金のピアスが基本の型。過激なバトルにはアーミールックも着用。遊びまわるときもボーイッシュなものが多い。右端は13話のウェディングドレス、左端はひばり御殿の衛兵になりすましたあすかとミコ

香川はるみ
（石田ひかり）

泰山学園生徒会長。あらゆる暴力を否定する正義漢。しかし手を汚さなくては何もつかめないというあすかのことばに目覚め、泰山学園から全中裏勢力を追い出すために全校生徒を立ち上がらせた。生徒会の立て直しもはかり、あすかの親友となる。趣味はお茶とお華。ボーイフレンド募集中。愛読書はハーレクインロマンス全集というおませさん。泰山学園２年Ａ組在籍。



堂本ミコ
（小沢なつき）



西三区のはぐれスケ番。花園中学２年生だが、ほとんど動物園（＝学校）には行かない。仲間に裏切られ、誰とも組まないはぐれスケ番となった。たったひとりで全中裏を敵にまわすあすかに興味をもち、しだいにその親友となっていく。武器はキンチャクで、振り回したり投げつけたりして相手を倒す。ヤキトリ、ハンバーガー、お弁当と、いつも何かしら食べている大食漢。

祥子をかばって弥勒と戦うあすかがピンチに…。「助太刀参上！」の叫び声とともにかけつけるミコとはるみ。さすがは親友！「軍師はるみに不可能はございません」がログセのはるみ。「よ、読めねぇ～」と頭の悪さをバクロしてしまうミコ。２人ともあすか組のたのもしき仲間である



井上幸子
（佐藤恵美）

いまは亡きあすかの親友。ニックネームはサチ。紅の泰山学園支配に反発するが、ほかの生徒たちから孤立し、ただひとりの仲間あすかも自殺未遂で休学。サチはついに紅に屈してしまう。紅に利用されるだけ利用された彼女は虫ケラのようにほうり出される。最後の力であすかのもとにたどりついたサチは、全中裏を抜けるよう忠告してくれたあすかに感謝しつつ亡くなった。あすかの金貨はこのサチの形見。（第１話）





九楽今日子
（石井めぐみ）

九楽あすかの母。自殺未遂から社会復帰したあすかが不良になってしまったことを嘆いている。だがいつの日かもとのかわいい娘に戻ってくれると信じ、明るく優しくあすかに接しようとしている。夫・昨造もその考え方に賛成で、２人とも驚くほどあすかには甘い。もっとも、パンダのエプロンに喜んだり全中裏勢力分布図を国盗りゲームと間違えるなど今日子が子供っぽいのは地なのかも。あの厳格そうなあすかの祖父・篠宮余一郎の娘とは、とても信じられない。

CHARACTER OF ASUKA GUMI

ひばり様と全中裏



総帥ひばり様
（佐倉しおり）

全国の中学を支配する手始めに、東京の中学の８割を支配した謎の組織・全中裏（全国中学生裏番組織）。その全中裏の総帥として組織の頂点に立つ美少女・ひばり様。この世は美しい秩序から成り立っているという考えから、美しい秩序をつくりだし、守るために全中裏を組織したという。だが彼女の本心がいったいどこにあるのかを知る者は誰もいない。いつも無表情にアンティーク人形を抱き、口数も少ないが、時折使うメッセージカードからは、裏切り者や役立たずに対する氷のような冷たさが感じられる。ひばり様を演じるのは「瀬戸内少年野球団」（東宝）や「アリエスの乙女たち」（フジ）でも人気の佐倉しおり♡



右大臣 春日
（本田理沙）

ひばり様に直接お仕えする側近。男装の麗人で、全中裏における地位も左大臣が空位となっていることでぶっちぎりのNo.2。ひばり様の手足となって裏番十人衆を指揮する一方で、ひばり様の本心が読みとれずイラだつこともある。演ずるは「Lesson 2」（ＣＢＳ・ソニー）で歌手デビューもしたキュートＧＡＬ♡本田理沙ちゃん。

■全中裏

全中裏の学園支配は、裏番十人衆の存在と、彼女らがその学園の生徒から選んだ風紀委員によって行なわれる。風紀委員は十人衆から拝領した〝全中裏〟の縫い取りが入ったはちまきをしめ、暴力といじめで生徒たちを統制する







■懲罰部隊

右大臣・春日直属の女性部隊。全中裏にとって不必要な役立たずをひばり様や春日の命令によって直接〝蘭塾〟へ送り込むのがその任務。それはたとえ十人衆であっても同じであり、全中裏のなかにあって最も恐れられている部隊であると言っていいだろう

十人衆
風林火山

西五区を拠点とし、西区の全中裏支配を進める美少女カルテット(！)。一匹狼的な人物が多い裏番十人衆のなかにあって、珍しく４人で行動をともにする。セーラー服に陣羽織をはおり、風林火山の縫い取りが入った陣鉢をしている。それぞれに得意技をもち、風は腰にさした吹き矢が武器。林は口にくわえて二ツ折りにした和紙を投げつけて相手を切り裂く。火はひょうたんに入ったガソリンを相手にふきかけ、火をつけて焼き払うという大技。山は力技で、相手をかかえ上げ、地面に投げつける。４人で完璧な強さを誇る風林火山だったが、暴力だけで友(生徒)を支配しようとする全中裏に反発、独自の行動を取りはじめる。





■あけぼの橋の対決
風林火山によって崩壊寸前のピンチにある西六区のスケバングループ＝ゴールドリボンを再起させるため、あすかとミコは風林火山の支配する西五区を正面突破しようとする。西六区への入口、あけぼの橋で待ち受ける風林火山に、あすかたちは奇襲戦法で挑みかかる！



「裏切り者を倒して、私が十人衆になる！」姉の心をわかろうとしない妹の攻撃をかわし、思いもよらぬ戦士の本能的な動きで反撃してしまった風…。「静香!!」「わたし、姉さんみたいになりたかった……」風は妹を心のないただの殺し屋にしてしまった全中裏を憎んだ



風(速水昌未) ４人のリーダー格。仲間思いでもある。「そのはやきこと風のごとく‥」



林(千葉美加) ４人のなかではサブリーダー的な存在。「しずかなること林のごとく‥」



火(和久井映見) 火術を得意とする気性の激しい美少女。「侵掠すること火のごとく…」



山(蜷川香子) 力自慢の大がらな美少女。口数は少ない。「動かざること山のごとし」

CHARACTER OF ASUKA GUMI

全中裏十人衆







十人衆
紅
(加藤麻里)

西三区を全中裏の支配下におくために活動する十人衆きっての行動派。セーラー服の上に緋縅の鎧・兜をまとい、馬を駆って暴れまわる。同じく西区の支配を着実に進めている十人衆の葵や風林火山には激しい対抗意識をもっていたが、あすか組の旗揚げによって西三区侵攻を阻止され、ひばり様の怒りをかって蘭塾送りとなってしまう。あすかにつけられた眉間の傷に恨みを込め、蘭塾から彼女が戻るのはいつ?(第1～3話)



十人衆
鬼
(岡坂あすか)

北一区大バン・織田信子の軍師を務める明智光子とは、仮の姿。その正体は信子だけが知る幻の北一区七天王を捜し出し抹殺する密命をおびた十人衆・鬼。兜の頬あてで顔を隠し、黒マント姿で竹馬に乗った姿が本来の戦闘スタイル。竹馬にはナイフが仕込まれており、相手を斬りつけることができる。明智光子として信子から大バンの座を襲名しようとするが、あすかに見せた関節技で正体を見破られ北一区支配に失敗。竹馬の攻撃も破られて失脚。(第8話)





十人衆
葵
（山形雄子）

かまいたちという技を使い三区以外の西区のほとんどすべてをひとりの力で支配した人物。その正体はひばり様の傍らで弦楽三重奏を奏でる葵、次、末の三姉妹。独立スケバン連合をつくろうとするあすか抹殺のため西三区に登場。ミコをおとりにあすかを呼び出した葵だったが、3人ひと組の正体をさらしたため、かまいたち（カミソリを射ち出す技）をかわされ、敗北。（第3話）



十人衆
弥　勒
（桑田和美）

つんつるてんの着物にぞうり履き、両手にお手玉を持った時代錯誤娘。使うことばも「…でおじゃる」「…しんぜよう」とこれまた時代がかっている。ひばり様の命令で火炎放射器を使う祥子を追放するためにやってきたが、祥子をかばうあすかと対決することになる。武器は両手に持った金色のお手玉で、中には小さな鉄球や、目つぶし粉が入っており、これをぶつけて攻撃する。あすかを追いつめるが、投げたお手玉をつき破ってとんできた金貨を顔に受け、敗れる。（第6話）

十人衆
天　使
（湯川章子）

ひばり様のもとを離れた子猫・小山内真紀を処刑するために遣わされた刺客。ツバの広いフェルト帽にマント、手には革製の手甲をつけていて、武器のボウガンを持っていなければとても天使に結びつかないイメージ。あすかとの対決ではふいうちされてボウガンを失うが、もうひとつの武器・サーベルで応戦。だがやはりあすかの素早い身のこなしにほんろうされ、必殺の金貨を額に受けて敗れる。（第5話）



蘭塾教官
ドラゴン
（三輝みきこ）

全中裏を裏切った風林火山たちを連れ戻そうとする蘭塾の女性教官。迷彩服に身を包んだスタイルで風の前に現われ、彼女に蘭塾へもどるよう説得する。だが人の心をもたぬ全中裏を見限った風は、ドラゴンのことばに耳をかそうとはしなかった。そこでドラゴンは林を捕らえ、風を西一区の廃工場へと誘い出す。蘭塾で風林火山の4人にそれぞれの必殺技を伝授したドラゴンは、いわばひとり風林火山。必殺技フルコースでも風の気持ちを変えられぬとわかり、本気で風を倒そうとするが、あすかの友情により力を得た風の反撃で倒される。（第14話）



CHARACTER OF ASUKA GUMI

全中裏の刺客たち







蝶
（大寶智子）

北区と西区の連合の機運に水をさすため全中裏が西区に放った刺客。しびれ薬をふくませた金ぱくを浴びせかけ、扇に仕込んだ小刀で西区のスケバンを次々に襲い、ミコにも大ケガを負わせた。本名・風祭静香。誰あろう風林火山の風の実の妹で、鈴の音を愛する優しい少女だったが偉大すぎる姉の存在をいつか追い越すため、みずから蘭塾へ。風と蝶の戦いは、悲しい別れで決着する…。白拍子姿で妖しげな魅力を見せてくれたのは「1999年の夏休み」（松竹）の和彦役で人気を博した大寶智子ちゃん♡だ。（第 9 話）

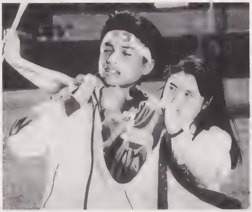


鬼族レディース

右大臣・春日によって賞金をかけられたあすかをねらう不良少女軍団。リーダーは鰐口広子（17歳）。同じく、あすかをねらう郷田勇三（17歳・元関東番長連合番格）の魔族と共闘をはるはずだったが、逆に裏切られてたたきつぶされてしまう。（第 7 話）

兵藤奈津子
（加藤純子）

新体操世界 Jr. 選手権第 5 位の実力をもつ美少女。1 年前まではミコとともに全中裏から花園中学を守ろうとしていたが、ブルガリア留学という条件に目がくらみ全中裏へ寝返る。帰国後、再度ブルガリアへの留学をかけて花園中学支配を命じられる。武器は新体操の手具、おもに帯状布（リボン）。武器があれば無敵の奈津子も、あすかの金貨で帯状布を失えばただの少女。ミコ怒りのビンタ嵐を受け敗北。（第10話）











タフ
(永田由紀)

未来までも延々と続いているというあすか組と全中裏の戦い。未来の全中裏はその戦いの歴史に終止符を打つべく、初代あすかを抹殺する作戦に出た。未来から現代へ送り込まれた刺客。それがこのタフなのだ。黒ずくめの衣装に包まれた体には恐るべき怪力パワーが…。それもそのハズの女サイボーグ。不死身の強さでWあすかを苦しめるが、雷の直撃で爆発。(第13話)

ミコに正体をあばかれたヨーコ。「ヨーコ姉！うそだよなっ!?」「…あすか…、おまえはまだ、泣き虫あすかだよ」ヨーコは冷たく言い放った…





ヨーコ
(相楽晴子)

あすかが姉のように慕っているはぐれスケ番。おハジキを武器にしており、あすかの金貨投げはヨーコから習った技の応用である。4年ぶりにあすかの前に姿を現わすが、月日は彼女をニセあすかとして「秘の包囲網作戦」を進める全中裏の刺客に変えていた。ミコに正体を見破られ、あすかと対決したヨーコは、もう過去の自分にはもどれないことを知っていた…。ヨーコ姉を渋く演じたのは「スケバン刑事II」ビー玉のお京こと相楽晴子♡ビー玉をおハジキに持ちかえての再登場に拍手！(第12話)



CHARACTER OF ASUKA GUMI
あすか組準構成員?

桜井祥子
（石井千穂）

ニューヨーク帰りの転校生。いつも小型火炎放射器を入れたアタッシュケースを携帯しており、自分を攻撃してくる者に対して激しい敵意とともに炎で焼きつくそうとする。だがそれは暴力への恐怖心の裏返しだった。あすかはそんな祥子に親友サチの姿を重ね、暴力に対抗するのに本当に必要なものは武器などでないことを身をもって教える。「黄色いリボン」の騎兵隊のラッパの音を心に響かせながら、祥子は再びアメリカへと旅立つ。（第６話）





独立スケバン連合

あすかが提唱した、西三区の各スケバングループが対等の立場で連合して全中裏に対抗する組織。各グループの頭になにかと貸しのあるミコも連合に協力するよう口添えするが、葵の影におびえてうまくいかなかった。だがあすかが葵を倒したことで連合は成立、区内の全中裏を一掃した。



立花ミツオ
（渡辺博貴）



花園中学校２年生。スケバンの荒っぽさのなかにふと見せたミコの優しさにまいってしまった優等生。自分の気の弱さから一度はミコを裏切り全中裏・奈津子の言いなりになるが、激しく後悔して奈津子とひとりで対決。ボロボロにされながらも正義と愛のために立ち上がり、ミコの心をつかむ。（第10話）



小山内真紀
（田山真美子）

私立早乙女女子中学１年。油虫だったがひばり様に気に入られ、そのご寵愛を受ける猫（親衛隊）となる。油虫からは脱したものの友達をすべて失った悲しみから自殺をはかったところをあすかに救われる。真紀はあすかにケンカのやり方を教えられ、ひとりで歩きだすために全中裏を抜けることを決意した。（第５話）





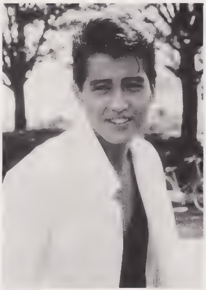


⬆大礼服にかくされていた秘密の呼び出しナンバーで集結した北一区七天王。華麗なローラースケートの技で全中裏の生徒たちを叩きのめしたまさに女・光ＧＥＮＪＩってとこ!?
⬅北一区先代大バンより譲り受けた大礼服をまとい、光子の大バン襲名披露に登場した織田信子。リボンやバッジでチャラチャラと着飾り人目をあざむいた大うつけ姿(失礼！)とはひと味違う、りりしい美しさ♡

織田信子
（藤原理恵）

北一区大バン。北安土女子学園３年生。全中裏の北一区侵攻を目のあたりにしても決起せず、尾張弁(？)を話してあたりをケムにまく大うつけだが、心のなかでは信ずるに足る仲間の出現を待って味方をもあざむいていた美少女版・大石内蔵助！演じるはアニメファンにもおなじみの藤原理恵♡(第８話)





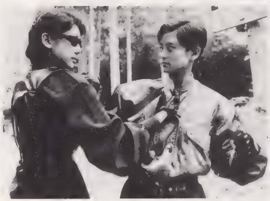
ヒロシ
（下林山守）

ヤスの一の子分。あすかにぞっこんのヤスにあきれながらも、やはり協力してしまう。ヤスとは反対にケンカはからっきしダメ。けっこうイイ男！(第７話)

ヤス
（渡 浩行）

シルバーゴーストの頭。あすかにひと目ボレしてなにかと協力する。ケンカも強く頭も切れるが、犬が大のニガ手。あすかのファーストキスの相手!!（第７話）





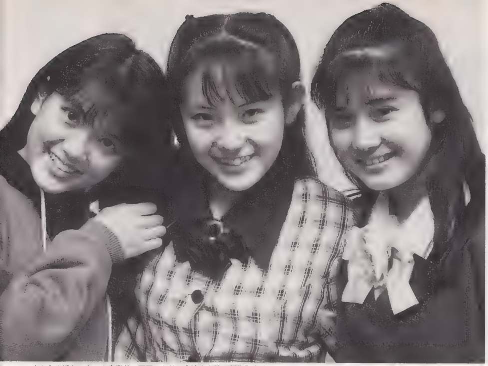
三代目 アスカ
（つみきみほ）

初代九楽あすか抹殺のために未来から送り込まれたサイボーグ＝タフを追って、同じく現代へやってきた少女。三代目アスカを名乗っているが、実際にもあすかの孫。あすかと同じ金貨も持っているが、武器として使うのは旧式(といっても現代)の拳銃。現代にとどまれる時間には限りがあり、タフを倒したアスカは再び未来へと戻っていくのだった。三代目アスカを演じるのは角川映画版「花のあすか組！」(東宝）のあすかを演じたつみきみほ。ＴＶ版あすか・小高恵美より、ひとつ年上の17歳。撮影では２人はすぐに意気投合し、お互いの武器の構え方などを教え合ったりするほどの仲良しに。(第13話)

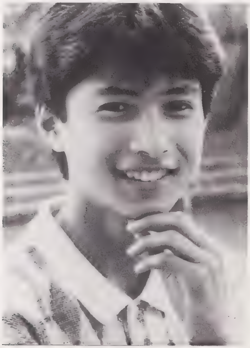
CHARACTER OF ASUKA GUMI

特別付録
素顔のあすか組

フレッシュなキャスティングも魅力の「あすか組」ですがここではオマケとして撮影スナップのなかから出演者たちの素顔をピックアップしてみました。ステキな笑顔のブロマイド集としてお楽しみください。


左から小沢なつき、小高恵美、石田ひかりの主演３人娘。製作発表時のスチールなので、ややイメージが違うかな？

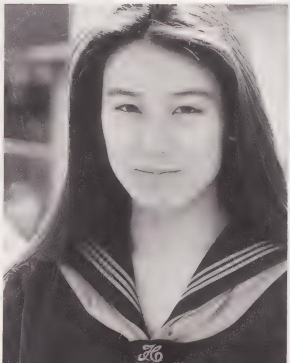

全中裏を脱退した、風こと速水昌未ちゃんのフツーの女子中学生(？)姿

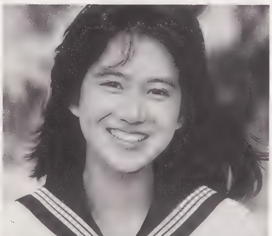

女性ファンにサービス！ 相変わらず美少年の渡辺博貴クンです


ツッパリぶりがかわいかった田山真美子ちゃんのとっておきスマイル♡


同じく林役・千葉美加ちゃん。やっぱり美少女だったんですねー


思わずアイドルしている石井千穂ちゃんであります


誰あろう、この人こそ紅様・加藤麻里嬢なのだ。美人！


こちらは火役の和久井映見ちゃん。ちょっと見ただけでは同一人物と思えない

「花のあすか組！」Broadcast List

フジ系　毎週月曜日　夜7時30分～7時58分　放映中

話数	放映日	サブタイトル / シナリオタイトル	脚本 / 監督	ゲスト出演
1	'88 4/11	少女戦国に嵐吹く！	武上純希	加藤麻里　遠藤美佐子
		アスカ組誕生！	田中秀夫	佐藤恵美　三井祐子
2	4/18	学園城を奪い返せ！	富田祐弘	加藤麻里　高野美夏　水沢真子　持田美保
		学園を奪い返せ！	田中秀夫	石井のり子　千葉千鶴
3	5/2	はぐれスケ番ミコ	武上純希	加藤麻里　須賀千春
		はぐれスケ番ミコ	大井利夫	山形雄子　星久美子
4	5/9	つぶせ！風林火山	富田祐弘	片桐友美　越川恵
		風林火山の逆襲	大井利夫	小泉理香子　桑名優香
5	5/16	謎の美少女を捜せ	武上純希	田山真美子　大村美樹　湯川章子　森田牧子
		猫と呼ばれた少女	田中秀夫	福田直美　工藤あかね
6	5/23	突然！炎の転校生	巽祐一郎　武上純希	石井千穂　安富祖ちえみ　桑田和美　中村仁美
		突然、炎の転校生！	田中秀夫	芝原チャコ　草見潤平
7	5/30	ファーストーキス!!	桑田健司	渡浩行　下林山守
		シルバーゴーストのヤス	大井利夫	林美和　小林栄次
8	6/6	おフロでピンチ！	武上純希	藤原理恵　佐藤素子　岡坂あすか　畑昌子
		風雲怒濤！北区の大うつけ!!	大井利夫	永岡泉　福田美枝子
9	6/13	はじめての涙	武上純希	大寶智子　川田路子　片山美穂　鴨下琴海
		刺客・蝶と風	田中秀夫	渡辺ひとみ
10	6/20	ミコの恋 パンツでデート	桑田健司	渡辺博貴　鈴木雅恵　加藤純子　長内恵
		悪女のミコ	田中秀夫	増田順子　松尾晶代
11	6/27	暗闇でドッキリ！	武上純希	長岡栄美　市村みつ子　山口麻紀　西田純子
		黄金の二宮尊徳像を盗み出せ！	大井利夫	吉岡聖子　丹羽葉月
12	7/4	もう一人のあすか	武上純希　巽祐一郎	相楽晴子　高橋幸香　吉田愛歩　大平江利子
		悲しき刺客	大井利夫	知念亮子　伊藤哲哉
13	7/11	時をかけるアスカ	武上純希	つみきみほ　三野輪有紀　永田由紀　遠藤美佐子
		二一世紀から来た暗殺者	前嶋守男	星久美子
14	7/25	狙われた風(仮)	神戸一彦	三輝みきこ
		狙われた風	前嶋守男	
15	8/1	汗、涙、熱血！白球に燃えろ	武上純希	石倉三郎
		汗、涙、熱血！白球に燃えろ	大井利夫	
16	8/8	ストリートシアターあすか団！(仮)	神戸一彦	
		ストリートシアターあすか団！	大井利夫	

TO BE CONTINUED

キャスト

九楽あすか——小高恵美
堂本ミコ——小沢なつき
香月はるみ——石田ひかり
風——速水昌未
林——千葉美加
火——和久井映見
山——蜷川香子
春日——本田理沙
ひばり——佐倉しおり
九楽今日子——石井めぐみ
九楽昨造——佐渡稔(第1、5話)
篠宮余一郎——加藤武(第1、2話)
ナレーター——中西龍
大野剣友会アクションスタジオ
日秀プロ
東映演技研修所

スタッフ

企画——前田和也(フジテレビ)　中曽根千治
原作——高口里純　角川書店　月刊あすか連載中　あすかコミック刊
企画協力——角川春樹事務所
音楽——津島利章
主題歌——「Get a Chance！」(第1～8話)
作詞／森雪之丞　作曲　中崎英也　編曲／中村哲
歌　BaBe(ポニーキャニオン)
——「BLUE WIND」(第9話～)
作詞　許瑛子　作・編曲／後藤次利
歌／小高恵美(ポニーキャニオン)
挿入歌——「きれい？」(第7話～)
作詞／川村真澄　作曲　筒美京平　編曲　鷺巣詩郎
歌／小沢なつき(CBS・ソニー)
——「少女・熱風・天然色」(第12話～)
作詞／売野雅勇　作曲／芹澤廣明　編曲　鷺巣詩郎
歌／石田ひかり(テイチクレコード)
撮影——村上俊郎　林迪雄
照明——大須賀国男　上原福松　関口弥太郎
美術——安井丸男
録音——岡田忠直
編集——只野信也
記録——井上かずえ　佐々木禮子
助監督——武田秀雄
選曲——秋本彰
整音——川島一郎
効果——原田サウンド
装置——脇田紀三郎
計測——臼木敏博
装飾——装美社
火薬担当——橋本俊雄
衣装——東京衣裳
美粧——佐藤泰子(サンメイク)
アクションクリエーター——上田弘司
広報——重岡由美子(フジテレビ)
進行主任——藤沢克則
制作進行——鈴木勝政　田辺史子
協力——NIKE　ファインネガ・ビデオシステム　東映化学
衣装協力——マグー株式会社(第1、2話)
東光商事㈱(第3話～)
コンピュータ協力——深野暁雄(第9話)
プロデューサー——石原隆(フジテレビ)　手塚治
制作——フジテレビ　東映

先のことなど考えていない
今をきっちり生きていたい

第7話「ファースト・キス!!」に登場した暴走族・シルバーゴーストの頭・ヤスがあすかの身を案じて「こんなことばっかりやってると、死ぬぞ!」と忠告したことに対するあすかの答えがこれであった

自分の為
だけでなく
他人(ひと)の為に
流せる涙って
きれいだ

第12話「もう一人のあすか」のクライマックス。自分との対決に敗れたヨーコ姉に「いまの一撃、本気じゃなかったね」と涙するあすか。その涙に対してヨーコ姉が言ったことば。傷ついたあすかの心を優しく包んだ

人を信頼
することは
命半分
預けることである

第8話「おフロでピンチ!」で、あすかは北一区の総番(大バン)織田信子と力を合わせようとする。そのあすかがどれだけの人物か確かめようと信子がさしだしたカレーパンをぱくついたあすかのことば

ゴッコに
命をはっちゃ
シャレに
ならない

第9話「はじめての涙」で、ミコが刺客に襲われケガをしたとき、あすかが風に対して言ったことば。「あすか組」が"ゲームのドラマ"であること、少女たちが都市の遊戯者であることを示した象徴的なセリフ

人間にとって
一番大事なものは
人と人とをつなぐ
信頼の心だ

第10話「ミコの恋 パンツでデート」で、かつての友・兵藤奈津子と対決したミコのセリフ「お前が捨てちまったのは人の心だ。人と人を結ぶ信頼の心だ!」に続いて、この字幕が出る。エリートに対する痛烈な皮肉

時刻表みたいな
人生はごめんだ
未来がわからないから
人生はスリルがある
ゲームなんだ

第13話「時をかけるアスカ」のラストで、はるみたちの未来を教えようとしたアスカを止めて、あすかが言ったことばと、それに対するアスカの答えがこの字幕になって出る。少女たちには無限の可能性があるのだ

あすか組金言集(2)

香月はるみ

石田ひかり






「青空の余白に」



HIKARI as HARUMI





カメラ／大塚俊一　スタイリスト／大野恵子　ヘア&メーク／戸口耕平
協力／Dana Mattiass　comin' soon　Moving blue






2A





HIKARI as HARUMI

HIKARI as HARUMI















HIKARI as HARUMI



HIKARI TALKS



今度はお姫様を演じてみたい

撮影も半分以上が終わって、最近は慣れて楽しくなってきたところです。小高恵美ちゃんは、いつでもキリッとして、すごく集中力があるし、小沢なつきちゃんは、演技やアドリブがとっても上手なんです。ミコが泣くシーンでは、なつきちゃんがホントの涙を流して泣き伏して、見ててスゴイなあと思いました。

はるみだけ、決まった武器がないでしょう。それで冗談ぽく考えたんですよ。定規のヌンチャクとか、出席簿でぶつとか、生け花の剣山を投げるとか、お茶の熱湯をかけるとか(笑)。どれもみんな、自分のほうが痛い目にあいそうですね。

はるみの役は、人からは「ピカちゃんの地のままだね」って言われたことがあるけど、ふだんはあんなことばづかいでしゃべったりしてませんよ。はるみとわたしのいちばん違うとこは、はるみは思ったことを行動に出すこと。自分では、あまり人前で思ったことを出さないほうなんです。のんき、と言うか、よくわかってないんです。もしわたし自身がはるみだったら、なんかこわそうなあすかやミコに、すぐ協力するなんて、心で味方してても、きっと行動では表わせないでしょうね。

自分の性格は、短気でわがままで、負けず嫌い。まばたきの少ない人だと思ってます。友達からは、「けっこう醒めてる」って言われますね。

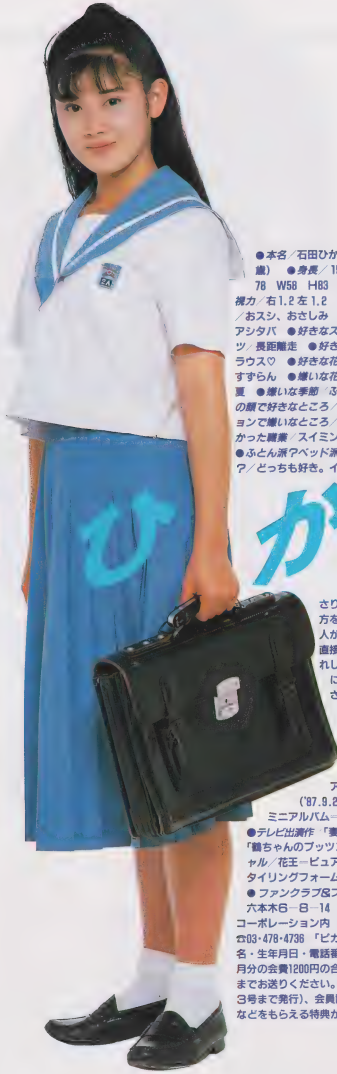
はるみの次は「里見八犬伝」のお姫さまみたいな役をやってみたいな。時代劇のお姫様とか、完全にお話の世界の役に興味があります。派手なアクションもやってみたいし……。あと、特技の中国語や水泳を生かせるようなものも。せっかくできるんだからって思って。とにかく、見てる人に感動してもらえるようなお仕事にめぐりあえたらいいな。

最初は歌手に憧れて芸能界に入ったんですが、今は歌もお芝居も両方続けていきたい。ユーミンみたいに、永遠のポップスになるような歌が歌えるようになりたいです。自分で聴くのは山下達郎さん、稲垣潤一さん、オメガトライブが多いですね。特に達郎さんの「クリスマス・イブ」「レディ・ブルー」「アイラブユー」が好き。失恋が好きなんじゃなくて、曲の感じが好きなんです。すごく自然に気持ちがスッと入っていけますよね。

悩みは幼児体型なこと。もうちょっと整ったプロポーションまでやせたいな。水泳をやってたころのスタイルにもどりたいし、ガッシリきたえた逆三角形の体に憧れています。ファッションも、前はおとなしい服ばかり着てたけど、いろいろ研究してみたいの。最近はパンツやワンピースも多いですね。

お仕事のせいで、学校へ行けなくなったら……って心配だったけど、思いのほか、ちゃんと授業に出られるのが嬉しいな。何よりも、友達が普通の子と同じに見てくれるのが、いちばん！

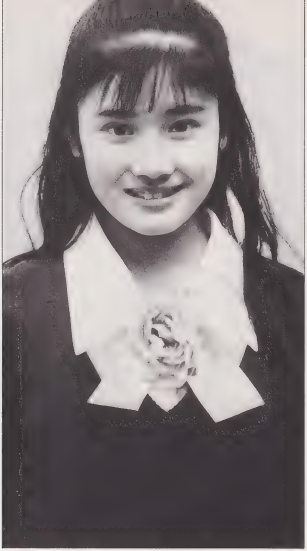

NEW COLLEGIATE



石田ひかり

●本名／石田ひかり　●生年月日　昭和47年5月25日(16歳)　●身長／159㎝　●体重／45kg　●3サイズ／B78　W58　H83　●星座　双子座　●血液型／A型　●視力／右1.2 左1.2　●出身地　東京都　●好きな食べもの／おスシ、おさしみ　●嫌いな食べもの／わさび、アボカド、アシタバ　●好きなスポーツ／水泳、球技　●苦手なスポーツ／長距離走　●好きなファッション／えりの大きな白いブラウス♡　●好きな花／マーガレット、ガーベラ、かすみ草、すずらん　●嫌いな花／びんぼう草　●好きな季節／春、秋、夏　●嫌いな季節／ふゆ〜〜　●日記／つけてます　●自分の顔で好きなところ／EYESですね　●自分のプロポーションで嫌いなところ／指の関節が太い　●子供のころなりたかった職業／スイミングのコーチ　●クセ／首、腰をならす　●ふとん派?ベッド派?／どっちも好き　●イヌ派?ネコ派?／どっちも好き。イヌはいっしょに走りまわって遊べるし、ネコは冬あったかいから！　●特技／水泳、中国語、立ち寝(！)　●好きな男の子のタイプ／スポーツが好きでさりげない感じの人。自分の考えとか生き方をもってる人。落ちついてて、話が合う人がいい。性格重視です　●うちあけ方　直接言ってくれると石田くんはとってもうれしいです　●楽しみにしてること／8月に全国7か所で行なわれるファンのみなさんとのレコーディングです♡　みんな来てね！　●レコード／シングル＝「エメラルドの砂」('87.5.21)、「くちびる♡²」('87.8.4)、「恋は確率51%」('87.11.4)、「二人の関係(リエゾン)」('88.4.21)、「少女・熱風・天然色」('88.7.13)　アルバム＝「HIKARI Legend」('87.9.21)、「White Virgin」('88.6.21)　ミニアルバム＝「モニュメント」('88.3.9)　テイチク　●テレビ出演作／「妻たちの課外授業II」(NTV'86.10〜'87.3)「鶴ちゃんのプッツン5」(NTV'88.5〜)ほか　●コマーシャル／花王＝ピュアシャンプー、ピュアリンス、ピュアスタイリングフォーム　グリコ＝ザ・アーモンド　ろうきん　●ファンクラブ&ファンレターの宛先／〒106 東京都港区六本木6−8−14　六本木ロイヤルビル702 (株)ボックスコーポレーション内　石田ひかりファンクラブ「ピカピカ隊」☎03・478・4736　「ピカピカ隊」に入隊希望の方は、住所・氏名・生年月日・電話番号を明記のうえ、入会金800円と3か月分の会費1200円の合計2000円を現金書留で「ピカピカ隊」までお送りください。会員になると会報「ピカピカ」(現在第3号まで発行)、会員証、直筆サイン色紙、ポスター、グッズなどをもらえる特典があります。

Hair & Makeup : KOHEI TOGUCHI



DATA FILE OF ASUKA GUMI



あすかのカオ…
何年描いてもナカナカ決まらない
自分のメインキャラをぶっつぶして
無から創った新キャラ。
ファンに受け入れられるかなぁ…
でも　いいや　新しいファンがついてくれれば
初めは　そんな感じ。

あすか組誕生秘話

高口里純

何を読んでも 同じような 少女マンガ

〝バーカ　一生やってろ〟



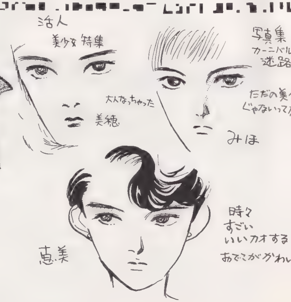
九楽あすか

チビ　一重まぶた　ダブダブのセーラー服　サラシ
ジンベエ　チャイナシューズ　戦闘服
歌舞伎町　　　学校　　　赤と黒
美少女



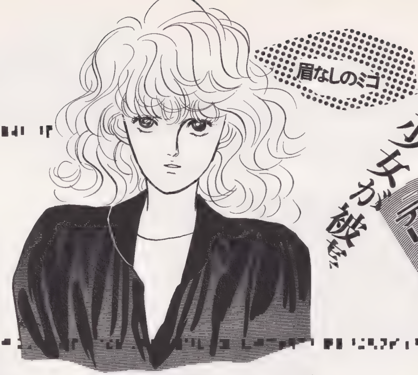
あすかのイメージ

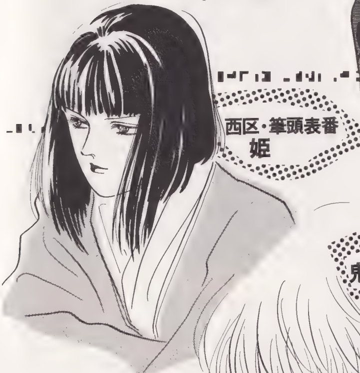
初めは山口百恵。
次は デビュー当時の中山美穂。
写真集見て なんだか不思議な
気がした 映画版のつみきみほ。
TV版　一番イメージ近い
小高恵美。声と声の出し方がいいね
今は全部まぜこぜでしあわせ



ダメだっていわれてること
少女マンガではタブーだと言われてること
みんなやってみたかった

恋愛抜き　もう恋の話は
ウンザリ
彼氏なんかいらねぇ
友達がほしい
そーゆー話





中学生　不良　いじめ
暴走族　少年ヤクザ　etc
素材で却下。
でも みんな 子供の世界でしょ?

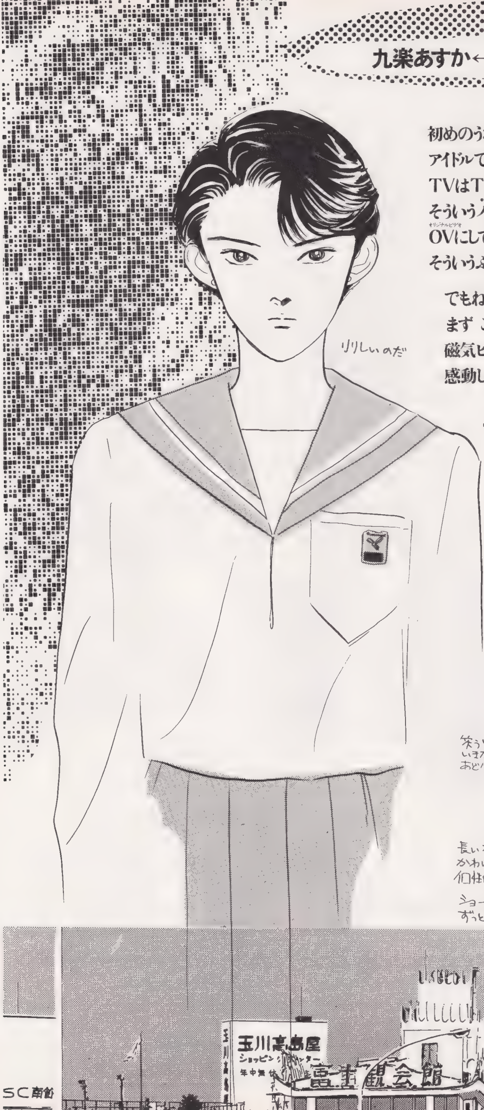


待ってたら拾ってもらった
角川さん。

連載も四年め突入
まだ半分も描いてない
——と思う
これからもっとおもしろくなる
予定

皆さんのおかげです
ファンの方
OV(オリジナルビデオ)　TV　映画
各カントクさん　脚本家の皆さま
スタッフの皆さま
月刊ASUKAの有能なエディター
の方々　お世話になります

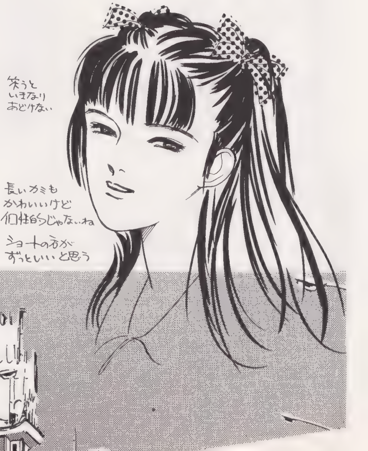
九楽あすか←→小高恵美



初めのうちはね
アイドルでしょう 期待の。
TVはTV　本誌は本誌
そういうノリだった。
OV(オリジナルビデオ)にしても 映画にしても そうだったし…
そういうふうに楽しもう…っていうか——

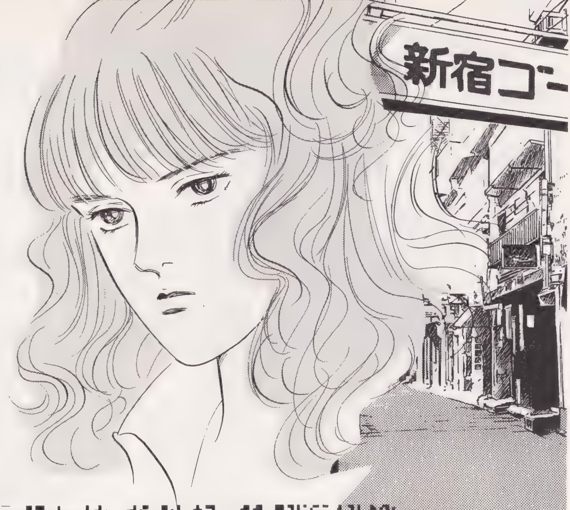
でもね　TVは何ンとなく違う
まず このかわいい娘ね 髪切っちゃったでしょ
磁気ピアスでもピアスに変りないし
感動しちゃった　それでわりと思い入れある

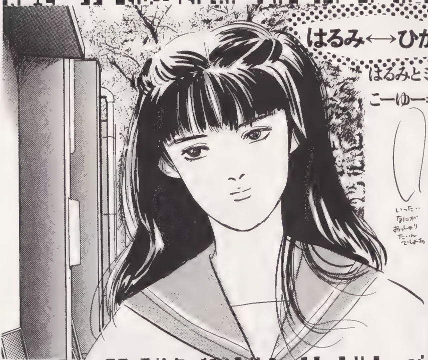
最初はなれないヤサグレ言葉では
あったけど 近頃サマになってる
特に ミエを切ったり　イカクしたり
する時なんか 思わずうなって
しまうもん(カッコイイね)
今ではハマリだと思ってる



ミコ←→なつき

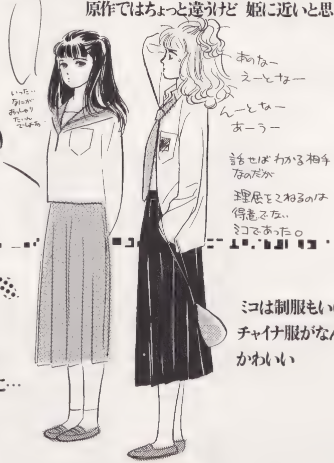
ミコとあすかのやりとりを
いつも楽しみにしてる
こういう関係に　あこがれてる
女の子達たくさんいる
〝この世紀末にマブダチなんて…〟
って台詞　気に入ってる
ミコ役の小沢なつき　好き
原作が影響されてきて
ミコとなつきがオーバーラップ
するのであった





はるみ←→ひかり

はるみとミコのやりとりもおかしい
こーゆーキャラクター　割と好き
原作ではちょっと違うけど　姫に近いと思う

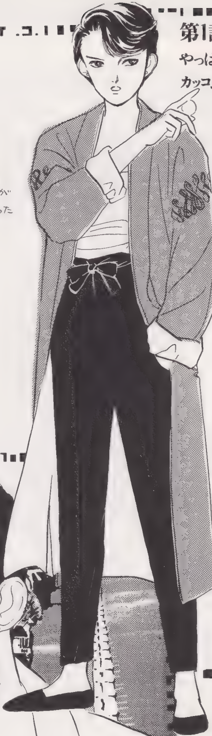


ママ←→石井めぐみ



原作でもそーとーおちゃめ
だけどTV版もすごい大ボケぶり
石井めぐみさん　まだお若いのに…
毎回楽しませてもらってます

ミコは制服もいいけど
チャイナ服がなんたって
かわいい

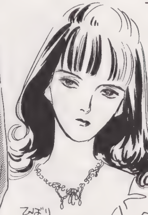


第1話

やっぱり変身後のあすかの登場シーンが
カッコ良かったぜ　髪 もう少し短くてもいいかな

第2話

やっぱり紅との
戦闘シーンが
なかなか迫力
ナイトシーンがカッコ良い





第3話

はぐれスケ番達の
会話がそれっぽかった
ミコの性格が
おもしろく出てた
トイレのハンバーガーには
笑いました



第4話

風林火山は全員かわいいので
目うつりしている
あすかとミコの会話がナイス
上っぱりをパッと脱いだ時は〝おっ〟
——カッコよかったです



第5話

原作にわりと忠実だったような
気がする　ひばりの〝美しい…〟が
サイコー



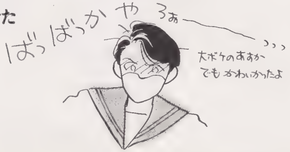
第6話

西部劇を素材にもってくるなんて
センスいいと思った
総じてキザな台詞が決ってて
好きだ

第7話



あすかが
男のキャラ（シルバーゴーストのヤス）に
からんで妙にかわいかった
ヤスのカッコつけやヒロシとの漫才も
うけた



主役の少女たちの素直な反応を画面に活かしたい



シナリオライター
武上純希

たけがみじゅんき／昭和30年2月26日、鹿児島生まれ。「戦国魔神ゴーショーグン」で脚本家としてデビュー。その後「幻夢戦記レダ」「超獣機神ダンクーガ」などのアニメ、「オレの妹急上昇！」ほかのドラマを手がける。最近作は「鉄拳チンミ」「宇宙皇子」（共作）

僕は「スケバン刑事III」から「少女コマンドーいづみ」そして「夢カメラ」と、この枠の実写番組を続けてやらせていただいて、その流れで「あすか組」にもメーンライターのような形で参加しています。まず、原作をそのままドラマにすると視聴対象が高くなって、夜7時半というファミリーの時間帯にそぐわないものになるだろうということから、どうアレンジしていくべきかという打ち合わせから入りました。原作では売春とかいじめ、暴走族、ヤクザといった現実的な問題が多く扱われていますから、そういうものを生の形でドラマのなかに取り入れていくのはなかなか難しい。ですから、原作の精神とか主張みたいなものは変えずに、主人公の周囲を派手めにつくっていくことでアピールしようという方向にもっていったんです。ですから最初は「スケバン」への先祖返り的な面もあって、それが時代劇ふうのコスチュームなどに表われていたわけですが、途中から今のようなあすかを中心とした青春ドラマ的な、現代ふうの軽いエンターテイメントの形へと徐々に変わってきました。

それは、ひとつには全中裏の支配が薄れてくるという作品の内容とのからみもありますが、もうひとつの大きな要素としてあすか・ミコ・はるみの3人のキャラクターが予想以上に成長しているということが言えます。最初はみんな新人ですからわからなかったんですが、フィルムを見るたびによくなってきて、逆に僕らのほうが引っぱられている部分もあるんですよ。

「いづみ」の場合、ひとりの少女が追いつめられていくという状況を極限までつきつめていって、かなりハードなドラマを志向してみたんですが、今回の「あすか組」ではむしろ「スケバン」シリーズでつくりあげられた黄金律——たとえば女の子3人の組み合わせとかですね、そういったものを発展させて小高恵美・小沢なつき・石田ひかりのコンビネーションをそのままドラマのなかに活かしていくことを考えたわけです。

あすか＝恵美がまずピシッといて、ミコ＝なつきがそれをまぜっかえす。はるみ＝ひかりは両方の間でバランスをとって——という構図ですね。これに脚本の計算を加えて、現実レベルに近い（このなかではミコ＝なつきが一番、普通の少女たちに近いポジションにいるんですが）少女たちの日常の雰囲気を出す方向にもっていったのが成功したと思います。

もちろん、初めからこういう青春ものにもっていくことは考えていましたが、そのタイミングが難しかった。それが4話で、風林火山が出てきたときに「なんだこいつら、おかしなかっこうして」みたいな感じでミコが現代の一般の少女たちと同じ反応をしてみせたところで、ポーンと突き抜けちゃったんです。普通なら向こうが時代劇調できたら、こちらも同じようにこたえるんだけど、でも実際にあんな連中が出てきたら怖いと思うより先に「本気かしら、こいつ」と思うのが見てる人たちの反応だろうと。で、全中裏は全中裏で彼らだけの世界をつくっていればいいから、あすかたちはノーマルな子と同じレベルにいて、彼らが出してくるいろんなギミック（仕掛け）に対してどう反応するかという、ギャップのおもしろさも出せるんじゃないかと考えたんです。これは演じている3人の女の子本人のキャラクターからふくらんできたもので、しかも脚本のうえで計算した以上にはずんでくれた部分もありましたから、これを活かさない手はないということで……。

それが全中裏の支配を脱して、明るさを取り戻していく少女たちの姿というシリーズの流れとダブルイメージされればいいし、じゃあ一気にその方向を進めてみようということになったんです。もちろん全中裏の設定の奇抜さみたいなものは、この枠のシリーズ全体に通じる魅力でもあるし、それをなくしてしまうというわけではありません。リアル路線と言っても少女たちの反応がリアルということなので、これからもそういう部分は活かしていくつもりです。たとえば、蘭麴落ちした紅をいつ復活させるかとか、ひばり様がどういう存在理由をもっているかという裏設定もできていて、これから後半に向かってその辺をまとめていくことになると思いますが、けっこうとんでもないアイデアがいっぱい出てきているんです。何しろ、未来からあすかの孫がやってきてしまうような世界ですから。今ははっきり言えませんけど（笑）、ひばり様の背後も実はとんでもない設定になってますし、最終回もいろいろ工夫したいと考えてますので、楽しみに待っててほしいですね。

最後に主演の3人の少女たちへのメッセージ。16歳の今の感性を大切にして、スタッフのおじさんたちをどんどん引っぱっていってください！

端的でわかりやすく! 30分ものはテンポで勝負

監督

田中秀夫

たなかひでお、岐阜県出身。東宝助監督を経て、昭和39年TV「特別機動捜査隊」で監督デビュー。「非情のライセンス」「特捜最前線」「快傑ズバット」「宇宙刑事」シリーズ、「スケバン刑事」シリーズ(劇場版を含む)などを手がけ、最近作に「はぐれ刑事純情派」がある



今回の「花のあすか組!」で僕自身が気をつかった点は、前作「スケバン刑事」シリーズとまったく同じになってはいけないということです。最初、この企画があがったときは戦国調のノリでつくりたいという注文だったので、それを意識してつくりました。しかし、途中から企画に少し変更があり、あすかとミコとはるみの3人を中心とした青春学園ものに変えてつくりだした。それが今の若い人たちにはすんなり受け入れられたみたいですね。ですから、今はわりあい明るい、本当の学園青春ものといった雰囲気で撮っています。

それと、30分の番組は、中身が正味21分でドラマが終わってしまいます。ですから、端的でわかりやすいものにしようと心がけています。その点、1時間ものは少し時間的に余裕があるので、絵がらによってのムードづくりを楽しんでいます。人物と人物の交流、感情の動き、心理的な描写を、セリフでなく画面によってつくり出す……。それをつくり出すまでに苦労しますが……。「あすか組」の場合は、いま流の会話のテンポ、いま流の若者の動きのおもしろさを大切にしています。

というのは、7時30分という放送時間帯で見る人の年齢層を考えるからです。短かい時間のなかで目をそらさせない。1分でも見そこなったらだめ! しっかり見てくださいよ!——というように、これでもかこれでもかと、見る人をグイグイ引っぱっていって、最後に「ああ、おもしろかった」と言ってもらえるようにつくっているつもりなんです。

カット割りですか? 最近はあまり細かくないと思うけど(笑)。でも、見る人にわかりやすくということを考えると、ある程度カットを割ってあげたほうが親切だと思う。30分ものは、やはりカットの積み重ねでテンポやスピード感を出したほうがおもしろいですしね。特にアクションシーンなどは、カット数が多くなります。動く人物をカメラが近づいて追いかけ、その表情をつかまえなくてはならないからです。その点、1時間ものですと、カメラを固定しておいて感情の流れで人物を動かし、その動きで芝居をまとめる。したがってカットが長い。1本の作品にまとめると、30分ものよりはカット数がグンと少なくなりますね。「あすか組」のように若い人が見る番組は、やはり4コママンガで見せるように、たたみこんでいくようなテンポが大事だと思います。

「スケバン刑事」もそうでしたが「あすか組」のオープニング、エンディングも僕がつくっています。最初に1分20秒くらいの主題歌のテープが来まして、それをくり返しくり返し聴きながら絵コンテをつくり、絵がらを選んで撮影し、つなぎ合わせたフィルムに音楽を流して完成させる方法です。そうしないと、見ている人の気持ちが乗ってこないと思うからです。オープニング、エンディングは台本がないので、自分のイメージでつくります。あすかが桜吹雪の中を歩いてくるシーンはクレーンを使おうとか、彼女たちの名前が出るところはストップ、コマ伸ばしと、編集マンと相談して決めていくわけです。

本編の撮影で苦労したということは特にないですが、難しかったという点では第1、2話が大変でした。映画版の「スケバン刑事 風間三姉妹の逆襲」を撮った直後だったので、映画のクセが出てしまうんですね。映画っぽく撮ろうとして、ロングのサイズが多くなってしまう。泰山学園の校庭のシーンではエキストラをそうとう使いましたし、ナイトシーンも多くて徹夜で撮影したり、カメラを六尺イントレ(台)の上にのせて移動して撮るとか、スタッフには苦労をかけました。とにかく、「シリーズを成功させるには、まず1、2話で人を惹きつけてしまわなくては!」そんな力みがありました。ちょっと力みすぎたきらいもありますが、どうでしょうか?

主演の3人についての感想ですか? みんないい子たちですよ。まあ、僕にしてみれば娘みたいな年ごろだし、彼女たちのほうもそう思ってくれているんじゃないかな。叱るばかりじゃなく、こちらから話のなかに入っていって、打ちとけるようにはしているつもりです。注文といったら今のままのびのびと、というだけでいいんだけど、あえて言うなら、台本をよく読みこんでほしいということかな。台本をよく読んで、役のうえで自分がいまどういう立場にいるのか、どういう気持ちでいるのかが理解できるようになっていけば、もっともっと伸びる子たちだと思う。僕らだって、台本の意味をよくつかまなければ、芝居を撮ることはできません。これから女優の仕事を続けていくうえでも、基本となる台本をまずしっかり読んで理解する。これを心がけていってもらいたいですね。

ケンカの中にも遊び心が感じられるドラマ作りを



監督
大井利夫

おおいとしお／昭和24年12月2日、東京生まれ。フリー助監督として「大江戸捜査網」などの時代劇を中心にさまざまな作品に参加。「ロボット8ちゃん」以降、東映テレビ作品が多く「ペットントン」で監督デビュー。「スケバン刑事Ⅱ」、月曜ドラマランド「悪魔くん」を演出

前の「スケバン刑事」は高校生でしたが、今回は中学生が主人公ということで、もう少し子供っぽい線を狙っています。割と、あすかというキャラクターをそのまんま出してしまうと、すごく大人びて、生意気っぽいだけになってしまうので、もっと子供っぽく「憎めないな、コイツ」という感じを出したい。ですから、画面のなかでも彼女たちを遊ばせて、特にあすか・ミコ・はるみが3人でいるときには、その年代の女の子たちが遊びながらしゃべっている、みたいな雰囲気にしようかなと、そんな感じでやってますね。

主演の3人にしても、ドラマのなかの中学生にしても、僕よりずっと年下ですから、自分も年齢を下げたつもりで、僕自身が中学生だったころのことを思い出して——まあ、半分は忘れちゃってますけど(笑)——こういう子たちをどう楽しく見ていられるかな、憧れているかな、みたいなことを考えながらつきあっているつもりなんです。もちろん、どうやったってギャップはありますけど、これくらいの年代のとき自分はこんなことを考えていたのかな、と僕なりに思い出しながらつくっているというところですね。

僕自身が「あすか組」で大事にしたいと思っているのは〝遊び〟の部分なんです。あすかとミコのやりとりに代表されるような、やや本筋とは外れたところにあるんだけど、遊びがあるから逆にピシッと言うときにはキマるんだと思うんです。あくまでも芯になるものは一本きちんと通っているにしても、彼女たちが遊んでいるときの楽しい感じというのを出したほうが、全体にメリハリもつきますしね。

それに彼女たち自身が不安定な年代ですから「えっ、同じ子がやってるの?」と思われるくらい、イメージが違っちゃってもおもしろいんじゃないかなって思うんですよ。そんなに一貫性なんてなくて、少々分裂ぎみでもいいじゃないかと。ワーッと笑ってたと思ったら急に怒ってみたりとか、そんな雰囲気でやってってもいいんじゃないかと思ってます。

アクションにしても遊びっぽさを取り入れて、けんかやってても「あ、いたずらだな」と思えるような、マジで戦うときは戦っているんだけども、そんななかに遊び心が入ってるという感じも少しは出したいですね。「ゴッコに命をはっちゃシャレにならない」というセリフがあったけど、やりすぎになっちゃよくないんで、子供たちの遊びやいたずらのなかのけんか、そういう描き方をしようと。原作では本当に命をはってやってるけど、ドラマではもうちょっと子供らしく、ちょうど昔の子供たちがけんかをしても弱い者はいじめなかったように、ある種シャレで許される、ルールあるけんかというのを狙ってます。

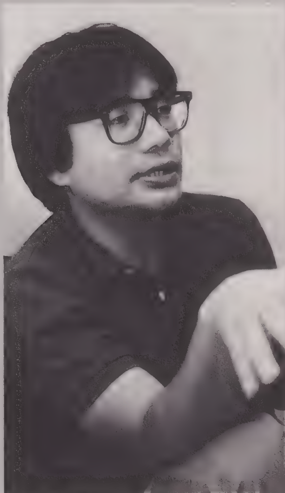
たとえば十人衆の鬼が竹馬に乗って戦うところでも、「スケバン刑事」だったら大マジメにやっちゃったほうがおもしろいんだけど、「あすか組」では〝何だ、あのダサイ格好をした奴は!?〟みたいにやや茶化してしまって、そういうところで「スケバン」とは違ったアクションをつくっているつもりなんですけどね。

僕はアクションが得意というふうに思われていて、ファンの人からそう言ってもらえると嬉しい、と感じるところもあるんですが、自分ではむしろ人と人のふれあいみたいな、叙情的な部分のほうが好きなのかもしれませんね。ただ、僕自身、感情の起伏の激しいほうなので、悲しい芝居をそのまま悲しく撮ってしまうと、自分でもいやになるくらい暗く落ちこんだものになってしまうような気がするんです。だから逆に動きで押していったりすることもあるんで、泣かせる場面を重くならず、雰囲気のいいものにできるよう自分自身をコントロールしていけるかというのが、今後の監督としての課題だと思ってます。

撮影も折り返し点をすぎましたが、今まで苦労したことというのはほとんどないですね。主演の3人が若いから、それで気をつかうことはありますけど。たとえば彼女たちがしょんぼりしていると、大人だったら大丈夫だろうと放っておけるんだけど、つい気にしてしまう。だからと言って「どうしたの?」とズカズカ踏み込んでいっていいものかと、その辺ですごく気をつかってしまうんです。

でも、3人ともいい子たちですよ。明るくておもしろくて、現場はすごく楽しい雰囲気ですね。小高はおとなしそうに見えるけど実は活発で、不思議な感性をもってるし、なつきは一番ハネてるように見えて、とっても寂しがりやだし、ひかりは3人のなかでは一番しっかりしてて大人だなって思います。これからもいろんなところで活躍していくでしょうけど、3人とも今の自分の感性を大事にして、大人たちを自分の遊びのなかにうまく取り込んでしまう若さを、これからももち続けていってほしいですね。

どこから見ても楽しめる金太郎飴のような番組



プロデューサー
石原　隆

いしはらたかし／昭和35年10月14日、名古屋生まれ。演出志望だったが、フジテレビ入社後は一貫して編成部プロデューサーとして活躍。「いきなりフライデーナイト」などのバラエティや映画「私をスキーに連れてって」のほか、「あそびにおいでョ！」もプロデュース

実は「あすか組」は「スケバン刑事III」の後番組の候補にも挙がっていたんです。「スケバンⅣ」の企画もあったんですが、このシリーズは一応ここで終わらせて新しいものをもってこようということで、劇場版の「風間三姉妹の逆襲」をファイナルに、ある種イベント的に盛り上げて終了させたわけです。しかし、少女アクションという路線自体は今までになかったもので、それは残したいと。そう考えたとき、前の「スケバン」3部作があまりにも偉大な番組であったために、完全にそれを捨てきって、まったく別のものをやるというのは途方もない勇気が要ることなんですね。それで「スケバン」のアクションを推し進めるというコンセプトで、一種究極のところまで行っちゃったのが「少女コマンドーいづみ」だったんです。

　そのときに「あすか組」の話も出て、私は原作を読んでいたんですが、すごく不思議な世界観をもった作品だなと思っていました。完全にSFチックというわけじゃなくて、いじめとか売春とか、リアルで社会性のある問題が取り上げられている一方で、全中裏みたいなとんでもないものが出てくる。そこから受ける不思議な印象に惹かれてはいたものの、これをTVでやるのはしんどいと思ったし、そのうちに映画化されることが決まったので、じゃあ、こちらはオリジナルの「いづみ」をやろうという話になったわけです。

　で、「いづみ」が終わるというときに、同じ議論がもち上がった。映画の「あすか組」が夏に公開されるから、それに向けてつくっていこうということで話が具体化したんですが、原作はやはりそのままの形では夜7時台の番組としてもってこれないので、またいろいろ悩みました。そんなときに映画版が完成して、試写を見せてもらったら未来を舞台にしたアクションになっている。なるほど、映画はこっちのほうへ翔ばしたか、それならということでTVの方向性も決まっていったんです。

　まず、あすかという主人公をもっと感情移入できる女の子にアレンジしようというのが一点。それと全中裏を出すにしても、マンガやアニメの場合と違って実写では不思議な場所で不思議な事件が起きているという感じがあまり出せません。ロケーションで現実の街のたたずまいが見えてしまって、具体的になりすぎてしまうんですね。だったら東京23区のままでいいじゃないかということで、そのときに出てきたアイデアが戦国ものの〝国盗り〟という発想だったんです。で、紅が馬に乗ってやってくるというところから番組がスタートしたわけですが、視聴者の皆さんには「何だ、スケバン刑事と同じじゃないか」という印象があったかもしれませんね。今にして思うと、それは私たちの側が混乱してしまった部分でもあるんですが、第4話あたりから徐々に作品のカラーが変わってきたと思うんです。一種、偽悪者的というか、麻宮サキがまっすぐに根性をすえて悪とガップリ四つに組むタイプだとすると、あすかたちはシャレでやっているのか本気なのか、よくわからない。その分、生の女子中学生とか女の子の部分が浮き出てくるだろうと、試行錯誤のうえで変えてきたのが中盤から花開いた感じがしますね。

　それと、この番組で意図したのは、これまでの大河ドラマ的なストーリーの流れよりも、1話完結のバラエティ的なおもしろさのほうを重視したつくり方です。これまでの例でしたら、当然ひばり様はなかなか素顔を見せない設定だったでしょう。それを今回は第1話から見せてしまって、そういう謎解きとか引きは最初から捨て、むしろあすかたち3人のドラマを見せたいと思ったからです。それに、今の子供たちは塾だのファミコンだの、やることがいっぱいありすぎて、毎週決まった時間に同じ番組を見続けるということができなくなっています。だから逆に、いつ見てもどこから見てもおもしろいというような番組づくりのほうが今はいいんじゃないか、と。

　幸い、うちはスタッフに恵まれていまして、私を含めてプロデューサーやシナリオライターはみな20代・30代と比較的若い。ですからノリはいいんです。たとえば未来から三代目アスカがタイムトリップしてくる13話のような話も、普通ですと「このシリーズでこういう話があるのはおかしい」という人が必ずいます。私だっておかしいと思うんですから(笑)。でも、それをあえてやってしまおうというのがTV版「あすか組」なんです。もうおもしろいことなら何でもあり！　の世界(笑)。それを田中監督をはじめ東映のしっかりした技術をもった現場スタッフがまとめてくれて、私自身も毎回、番組を楽しんでいます。これからラストに向けて、どう展開していくか。皆さんも楽しみに見ていてください。



少女たちの「魔法の時間」を守るためにあすかは戦い続ける

佐藤善木

さとうぜんぼく　昭和35年5月4日、静岡県生まれ。法政大学卒。テレビマンユニオンのディレクターとして映画「スウィートホーム」のメイキングや舞台「雨のハムレット」のビデオ部分の演出を担当

TV版「花のあすか組！」の正しい見方——それはまず第一に、この番組がTVドラマというジャンル特有の武器をちゃんと装備しているかどうか、きちんとチェックしながら見る、ということじゃないかしらね!?

だいたいにおいてTVドラマって輩は、ヒッチコック先生の映画術的正しさから比べれば、ホントにデタラメでいい加減で、まさに映像世界の鬼子のようなものなのであり——しかしながら、それでいて時に「電撃戦隊チェンジマン」の名乗りポーズに「北北西に進路を取れ」のトウモロコシ畑シーン以上の興奮を感じてしまう自分を発見して、思わず狼狽してしまう一幕なんかもあったりして。要するに自分がその、ついついデタラメなどという言葉で表現してしまったモノの中に、実は映画的な正しさを越えた、ある種積極的な契機が秘められていたりもするわけで——そして、それこそが他ならぬTVドラマのオリジナリティと呼べる代物なのだろう。

先日、番組の取材で脚本家の山田太一さんとお会いした時、僕はそのコトを問いかけてみた。

それに対する太一さんの回答は、

「TVドラマは映画的なるものからこぼれ落ちた総てのモノを拾う」

というものだった。

つまり映画というものは、2時間前後という短い上映時間に向けて凝縮された世界なのである。いきおい作家の資質は、雑多な世界の中から余計な枝葉を刈りこんで、一つの物語と一つの主題という太い幹を選択していく、その手さばきの的確さにおいて問われるワケだ。だから映画において提示される情報とは常に明解で、にごりのないものでなければならない——カットの意味、セリフの意味は作家の意思の名のもとに統一されていなければならず、にごった情報をはらんだカットは編集段階で確実に落とされてしまうのである。しかしながら現実の人間の生活というものは、さまざまなノイズに満たされ続けているものである。その中で人間の行動倫理というのは決して首尾一貫しているとは限らず、時に大きく矛盾し、まさしくデタラメになったりもするのである。連続シリーズという特異な形式を獲得したTVドラマはそんな、映画がカットしてしまったオフ・ストーリー的な枝葉ぐるみで、多面的な人間群像を提示することができるのである。

以上の論旨を「日常性」とか「等身大」とか呼ばれた山田太一のドラマ像と結びつけて納得するコトは容易だ。しかし、同時にこのコトは「ウルトラマン」を始めとする「非日常」「身長40m大」ドラマにおいても見事にあてはまってしまうのである。「ウルトラマン」の作品世界は、地球を守るウルトラマン——という基本設定を主題としながらも、そのアンチテーゼ——果して地球を守ってよいのかどうか悩むウルトラマンの姿をも同時にかかえこんでいた。このコトはまさしくTVドラマならではの、特殊事態と呼べるのではないだろうか!?

そしてこの「反主題」の領域化は、説話の次元のみならず、映像モンタージュの次元にもエンラージできる。そのコトを実現したのが、一連の東映TVプロの作品なのである。

主題的なモンタージュ——それはまさに物語を正しく、よどみなく見せるために的確なカットを積み重ねていく、いわば物語の経済原則のようなものだ。それに対して反主題的なモンタージュとは、物語よりも、その場その場の視覚的ショックを追求していく、いうなれば巨大な浪費の体系である。本来、視覚的ショックには、それが無方向、無目的であればあるほど、人間の本能的な欲望を満たす何かが内在している(遊園地とは、そういうアトラクションの集大成である)。それがしかし、映画では今度は2時間という上映時間の長さによって抑圧されがちなのだ。東映TVプロは、放映時間25分という短さを逆手にとって、ハイジャンプ・カットの3連フラッシュバックとか1ショット毎に戦闘地帯がブッ飛んでいくとかいった、説話を全然無視した、デタラメという名の純粋快楽のスクラッチの世界を実現してしまったのである！

そうして始まった一連の「スケバン刑事」シリーズにおいては、コードネーム・麻宮サキという主題をサカナに、説話の次元においても(多様な映画、風俗の引用、パロディ)、映像の次元においても(麻宮サキの、「柔道一直線」結城真悟を想起させる脳天直下攻撃！)、スタッフ各人がそれぞれの思い入れで勝手に持ち寄った欲望たちのゴッタ煮天国が開花していて、実に痛快ではあった。そしてその「スケバン刑事」の後継者としての「花のあすか組！」にそうした面白さが散りばめられているのは言うまでもない。だが、そこにおいてはどうやら、これまでは「反主題」とされていた諸々の情報が、実は「主題」化している——つまり主題と反主題との関係が入れ子になっていて、その微妙さが本作の特徴を形成しているようなのだ！

そしてTV版「花のあすか組!」の主題は、少女たちの「魔法の時代」とその終焉という、反主題の崖っぷちに立たされたような、実に危いもののような気がする。

トルーマン・カポーティの小説に「遠い声・遠い部屋」という作品がある。詳しいストーリーは失念してしまったが、とにかく少年が生き別れた父に会うために、ある村を訪れる話だ。その村の住人というのは皆どこか非現実的で、童話的な人物として少年の前に立ち現われる。ところが物語が進み、少年が現実との接触能力を高めるうちに、村人たちはどんどんその魔法のオーラを解かれていき、ついにはただの村人というだけの存在になってしまう。そうして少年はその少年期から自立し、大人として村を旅立つ――そんな一種のビルドゥングス・ロマンとして描かれていたように記憶している。

洋の東西を問わず、人間には現実の環境よりも空想の領域の方にそのアイデンティティの基盤を置いてしまう時代がある。童話からマンガ、TVゲームへと到るメディアを通して、あるいはママゴト、戦争ごっこといった仲間たちとのゲームを通して、空想の領域は大きく花開く。そこでは何というコトもない友人を、ある別の何かに見立てていく想像力こそが彼の行動倫理を支配しているのである。

この時代をいわば、少年少女たちの「魔法の時代」と呼ぶコトはできよう。ところが、この「魔法の時代」は明らかに期限つきのものなのである。人間はいつかこの時代を卒業して、はっきりと現実と立ち向かわねばならない　つまり、子供から大人になる、のである。

しかしながら、ある人間が一日を隔ててはっきりと子供から大人へと転身するなどという事態はあり得ない。魔法の時代と現実の時代の間には、両者が判然とした区別もないまま相乱れたトワイライト・ゾーンが存在するハズなのである。この時期――それはたぶん、小学校高学年から中学にかけての数年間であろう。そしてこの「花のあすか組!」は、まさしくそのトワイライト・ゾーンのただ中で物語を展開している。このコトが、本作とそれ以前の「スケバン刑事」シリーズとを分かつ決定的な相違点なのである。

麻宮サキが高校生であり、九楽あすかが中学生であるコト　そのコトがこれほど作品の気分を変えてしまうとは、正直僕にも意外だった。麻宮サキとは、実ははっきりと卒業後の世界の人物だったのである。あの一見ハチャメチャな、ターミネーターくずれのハヤト1号の存在を支えていたもの――それは政界をも巻きこんだ巨大なる悪の組織であったのだ。もちろん、そんなものは物語的な虚構ではある。だがしかし、劇中人物としてのサキがそれが劇中の現実にすぎぬコトに気づいてしまうような事態は、まちがっても到来しない。それほど彼女は、その世界の中での、安定した「大人」だったのである。

それに比べ、「花のあすか組!」の登場人物たちはみなどこか危い。全中裏なる組織そのものが何やら根拠不明確だし、九楽あすかが「天下を取る!」と宣言したところで、その天下がどういう天下を指しているのかも判然としない。そうこうしている合間にも陣羽織やらレオタードやらを着こんだワケのわからん少女たちが続々登場してくる有様である。いったい物語をどういうコードで読みとってよいのか、実は僕自身、相当苦慮してきたのは事実だ。

それに加えて劇中の少女たちがどこか自らの存在のあやうさ加減を承知しているのも本作の特徴である。「ゴッコだよ、コレは」と呟やくあすか、「正義の味方なんかいやしない」と嘆く炎の転校生……要するに全中裏もあすか組も、総ては少女のイマジネイションの産物かも知れないという恐れをみな抱いているのである。魔法が解けた時、幻想が消えた時、ヨロイカブトの紅も、雅を解する弥勒さんも、実は竹の子族と同質の、ケバケバ衣裳愛好少女にすぎなかった、てなオチを迎えるのかも知れない(実際、この番組には相楽晴子演じるヨーコとか、「お姉ちゃんを超えたかった」と言い残して死んでいった蝶とか、魔法の解けた、醒めた顔というのが度々登場している)。だからこそ少女たちは本気で戦う――虚構としての少女の超人性を、戦いの過程で互いを互いとして見立てていく……そのコトによってギリギリ維持していくために、である。つまり全中裏もあすか組も少女の魔法を守るという点においては共犯者なのである。そして、できれば魔法の世界の倫理で大人の世界の倫理を突破したいと願っている……。つまり少女が超人でいられる現実世界を実現していくコト――それこそが実は互いの狙う「天下取り」なのではないだろうか!

その時、九楽あすかはコードネーム・麻宮サキという明確な主題となり得るハズなのだ。そして今、彼女は自らのアイデンティティ確立に悩む「反主題」の世界から、そこへと到る途上にある。その「反主題」から「主題」へと到るビルドゥングス・ロマン――それこそが「花のあすか組!」の真の「主題」なのである。このヤヤコしさがTVドラマ的な結実を迎える時が来るか否か。しばらくは予断を許さず見守っていきたい。





コミックスバージョン［原作］





「花のあすか組/」単行本リスト

「花のあすか組/」のコミックスは、現在本編が9巻、外伝が2巻まで、角川書店から発売中。新書サイズで、各370円です。あすかと全中裏の戦いを描く本編のほかに外伝では、いじめられっ子時代のあすか、ヨーコとの出会いなど、本編以前のいきさつや、ミコやヨーコ、シルバーゴーストのヤスの心情などが描かれているのだ

'85年6月、「花のあすか組/」は、月刊「ASUKA」の創刊と同時に始まった。

恋人より先に、友達がほしい――

ひとりの人間としてキッチリ立てなくちゃ、恋はただの〝逃げ〟、問題はそのままになっちまう

恋愛というファクターといっさいかかわりのない主人公あすかの〝戦い〟は、少女マンガというジャンルを越えて、ファンの心を揺り動かしつづける。

「ASUKA」誌では、まだ当分、あすかの戦いを見ることができそうだ。

ひとりの少女がいる。名は九楽あすか。14歳の中学3年生。学校でも、歌舞伎町でも、誰ともツルまない一匹狼だ。

新宿に迷いこみ、あすかと出会ったはみだしっ子のミカやトンコたちは、あすかを通して、自分をとり巻く世界と向かい合う姿勢を学んでいった。

そしてある日、アイドル志願の少女・歩とかかわったために、ヤクザの松島組紅神会と〝戦争〟をすることになる。歩は、紅神会に無理やり売春をさせられ、それを写真に撮られていた。そのネガを取り戻すため、あすかはかつて全中裏番組織にいたころの仲間を動かした。紅神会がらみの人物をさらい、そのスキに会の事務所を襲ったのだ。

全中裏をしきる謎の人物ひばりは、あすかの勝手な動きを罰するため、刺客の紅や葵三姉妹をさし向けた。あすかの親友のミコや、あすかに従う表番たちにも、ひばりの制裁の手がのびる。ひばりの陰謀で、暴走族鬼畜レディースは〝秘の包囲網〟を仕掛けてきた。別の暴走族シルバーゴーストのヤスの協力により、とらわれたミコを助け出したあすかだが、コトはそれでは済まない。鬼畜レディースと全中裏は休戦協定を結び、あすか打倒作戦〝オレンジ計画〟を開始した。あすかの知りあいのはるみが起こした学校放火事件を利用して〝蘭塾〟へあすかを放りこもうというのだ。蘭塾は事実上、全中裏の兵隊養成施設で、ひばり傘下の朱が牛耳っている。そこであすかを倒すつもりらしい。

ミコと組んで鬼畜レディースに挑むあすかは、シルバーゴーストの人形・ユカリの参加もあって、みごと計画を破った。だが蘭塾には、かつての親友であり、今はシロクロをつけなければならない相手ヨーコがいる。ヨーコをシャバへ連れ出すために、あすかはみずから蘭塾へ入るのだった。

蘭塾であすかを待ちうけていたのは、朱直属の舎監三将と蘭塾懲罰部隊だった。彼女たちをかわしたものの、あすかはサバイバル・ゲームのスペシャル・キャラクターにされる。あすかを倒せば蘭塾から出られるのだ。強者たちに狙われつつも、影武者を使ってゲームを抜け、迷路の奥の第三エリアをめざすあすか。そこにはヨーコがいる。朱の勢力外で独自のラインをもつ最首や、ミドリ、バーゲンらの有力者が機を見て朱の作戦から脱退したこともあって、あすかはヨーコをさらい、史上初の迷路攻略者として蘭塾を出た。

シャバに戻ったあすかを、ひばりの側近・春日が迎えにくる。全中裏本部でひばりと対面したあすかは、ハッキリとひばりに宣戦布告した。

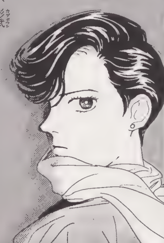
「あんたが動かなきゃ、あたしも動かねエってことさ」

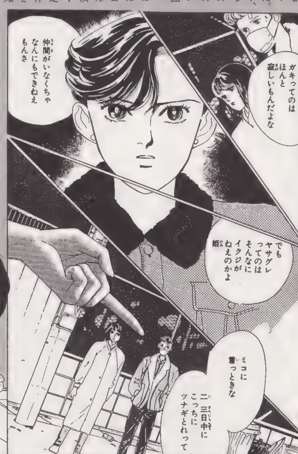
あすかのことばに、ついにひばりが本気になった。あすかツブシの手始めに、あすか派の表番・姫がひばりの手に落ちた。ひばり率いる全中裏と、あすかとの、本当の戦いが始まったのだ。

そして、ミョーにあすかを気にいってしまった紅神会総長トキ正宗と、シルバーゴーストのヤス、シャバに出たヨーコがいる。あすかの死闘は、これからがクライマックスだ――!



©高口里純・角川書店

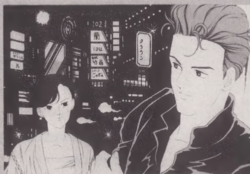




アニメバージョン



●「新歌舞伎町ストーリー　花のあすか組！」東映ビデオ＝TE-M057（VHS、ベータ・各1万2800円）、TE-D151（LV・7800円）／カラー／ステレオハイファイ／48分／'87年6月12日発売



夜を切り裂いて走る、暴走族の車の群れ。鬼族と鬼族レディースの若者たちだ。迎え撃つのは横浜の暴走族シルバーゴースト。バックには爆音と彼らの嬌声、そして警戒中の警察無線の連絡が交錯する——。このきわめて映画的な導入部が印象的なアニメ版の「あすか組」は、角川映画・東北新社・東映ビデオの提携作品で、アニメ製作を東映動画が担当したOVA。

全中裏を抜け、どのグループにも属さない一匹狼としてバンを張る九楽あすかは、いつものように歌舞伎町を歩いていてヒロリンのグループにインネンをつけられているよっこを助けた。あわや乱闘というとき、あすかを慕うミコや姫たち西区表番が応援にかけつけ、ヒロリンらを追い払う。それを知った全中裏の総番ひばりは、十人衆のひとり、紅にあすかの処分をまかせ、西区表番たちには懲罰部隊を差し向けてヤキを入れさせた。

かつてあすかに顔を傷つけられ、恨みを抱く紅は、カラスを使ってあすかを襲ったが逆に返り討ちにあい、今度は卑劣にも鬼族レディースとあすかが争うように仕向けた。ミコが人質にとられ、呼び出しを受けたあすかは晴海埠頭で鬼族レディースと対峙する。しかし、姫を中心とした西区表番グループ——林、火、風、山、水らは全中裏を抜ける覚悟を決め、紅のたくらみを打ち砕いた。ついにタイマンを張るあすかと紅だが、今度もまた紅の敗北に終わり、鬼族レディースも警察の介入をシオに引きあげていく。ミコを助けたあすかたちは、あすかに片思いのシルバーゴーストの頭、康弘の車で新宿へと帰るのだった。

監督は「北斗の拳」の演出で注目された梅澤淳稔。脚本を、小説版（角川文庫）も執筆している寺田憲史が担当。その他、キャラクターデザイン&作画監督・半田由利、美術監督・有川知子、宣伝プロデューサー・高梨由美子と、女性スタッフが多いことでも話題になった。



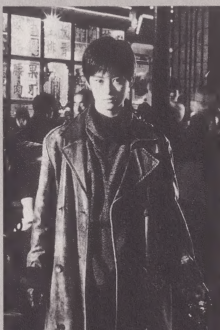
また、声の出演も豪華で、あすか役に「幻夢戦記レダ」などの鶴ひろみ、ひばりにミュージカルでも活躍している戸田恵子、よっこは歌手出身の実力派・山本百合子、その他、ミコ＝富沢美智恵、姫＝川村万梨阿、紅＝江森浩子、春日＝山田栄子、康弘＝古谷徹、ハコザキ＝土井美加、あすかの母＝向井真理子（！）と、適役ぞろい。全体に原作のエッセンスを手際よくまとめ、東映らしい正統派のツッパリ・ストーリーに仕上げた一編である。

映画バージョン



時は199X年。かつては大人のための歓楽街だったNEW KABUKI TOWNは、今や若者たちの欲望と暴力が渦巻く無法地帯と化していた。赤玉と呼ばれるドラッグを人々に売りつけて資金源にしているストリート・ギャング、レッドノーズゴッド。彼らとなれあい、見て見ぬふりどころか赤玉の恩恵にあずかっているK官をボスとする警視庁新宿第4分署——略してPB—4の悪徳ポリスたち。そして赤玉作りの名人ヨーコを擁して裏の世界に隠然たる勢力を誇っている謎の美女HIBARIとそのグループ。

3者の力の均衡の上に成り立っていた見せかけの平和は、ある日突然、あっけなく崩れ去った。もとHIBARIの親衛隊だった少女あすかが、仲間のミコと組んでレッドノーズゴッドの赤玉と、K官の金をごっそり奪い取ったのだ。HIBARIはミコの姉であるヨーコに「あすかを殺せ」と命じる。が、実はヨーコこそ、レッドノーズゴッドの頭、トキ正宗と通じ、HIBARIを陰の帝王の座から追い落とそうと狙っていたのだった……。



「友よ、静かに瞑れ」や「黒いドレスの女」でハードボイルドタッチの演出に定評のある崔洋一監督が、みずから脚本も担当し原作を大胆にアレンジ。「ブレードランナー」ふうの舞台設定と「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」的なキャラクター、そして「ストリート・オブ・ファイヤー」調アクションをミックスしたニューウェーブ・バトルアクションに挑戦した角川映画の最新作がこの「花のあすか組！」だ。

あすか＝つみきみほ、ヨーコ＝武田久美子、HIBARI＝美加里、トキ正宗＝石橋保、ミコ＝菊地陽子、K官＝加藤善博、そしてHIBARIの側近・春日＝松田洋治とキャスティングが異色。特に声帯を失ったHIBARI様の設定や、見果てぬ野望を抱いたために実の妹までも殺さざるを得なくなるヨーコ（武田久美子の熱演に拍手！）の悲哀には、崔監督一流の異形の人物に寄せる愛情が感じられる。反面、いつものストイックな演出が裏目に出て、今ひとつ盛り上がりに欠ける部分もあるが、つみきみほの爽快なアクション、近未来の東京の異様なムード、全編に流れるR・ストーンズ「サティスファクション」の心地よいリズムなどなど、見どころは多い。



●'88年8月13日より、東宝洋画系ロードショー（同時上映「ぼくらの七日間戦争」）

CONTENTS

NEWTYPE 100% COLLECTION 13

ASUKA GUMI
TV VERSION

PHOTO WORKS
撮影＝大塚俊一
スタイリスト＝大野恵子
ヘア＆メーク＝戸ロ耕平、竹内敦也（B・ラッシュ）
撮影協力＝千代田スタジオ、バックスタジオ、スタジオ・フォリオ
写真協力＝フジテレビ、芝崎慶三
取材写真＝山口アイ子、野呂英成、大塚俊一
SPECIAL THANKS
手塚治、重岡由美子、フジテレビ、東映、東映大泉撮影所、田島孝雄
マネージメント＝石郁典子（東宝芸能）、小倉章子（ケイハウス）、川口栄子・三橋信夫（ボックスコーポレーション）

ニュータイプ100%コレクション⑬
花のあすか組!
昭和63年8月1日発行
発行人・角川春樹　編集人・井川浩
発行所・〒102 東京都千代田区富士見2-13-3　角川書店　ニュータイプ編集部
印刷・大日本印刷株式会社

ISBN4-04-705113-6 C0374

HARUKI KADOKAWA PRESENTS

NEWTYPE 100% COLLECTION—13

ASUKA GUMI TV VERSION

●PUBLISHER
TSUGUHIKO KADOKAWA

●MANAGING EDITOR
HIROSHI IKAWA

●EDITORIAL DIRECTOR
SHINICHIROH INOUE

●CONTRIBUTING EDITORS
TOSHIKO HONDA HIRONORI KATAYAMA

●ART ASSOCIATES
HIROKO TAJIMA DESIGN CREST

●EDITORIAL OPERATION
YUTAKA AZUMAYA KOHICHIROH ITOH
HIDETO TABEI

●BUSINESS ASSOCIATES
TAKASHI CHIBA

●PUBLICITY
MAKIKO YAMATSU

●ART DIRECTOR
TETSUYA ASAKURA

●PHOTOGRAPHER
TOSHIKAZU OHTSUKA

●STYLIST
KEIKO OHNO

●HAIR & MAKEUP
KOHEI TOGUCHI ATSUYA TAKEUCHI

●ASSOCIATE EDITOR
SHINSUKE NAKAJIMA

●SUPERVISOR
RYOETSU SATO

●SPECIAL THANKS
MEGUMI ODAKA
NATSUKI OZAWA
HIKARI ISHIDA
AND SATOSUMI TAKAGUCHI



GUNDAM ZZ PERFECT EDITION



Z GUNDAM MECHANICAL EDITION VOL.1



METAL ARMOR DRAGONAR SPECIAL EDITION 2



Z GUNDAM CHARACTER EDITION VOL.1



GUNDAM CHAR'S COUNTERATTACK



Z GUNDAM MECHANICAL EDITION VOL.2



MACHINEROBO SPECIAL EDITION



HEAVY METAL L.GAIM



METAL ARMOR DRAGONAR SPECIAL EDITION

NEWTYPE 100% COLLECTION 13

花のあすか組！●TVバージョン

角川書店



ISBN4-04-705113-6 C0374 ¥980E

定価980円 角川書店